



84号 350円

思考の逆転 平田ひと江 1

女の人生の選択に干渉 児童扶養手当切り捨て 31

女の失業率史上最悪に 31

金明観「人間の自由と「戸籍」」 京都から 7

保障と平等なしの公益試案に怒りの声 27

東京都ESCAPシンポジウムを聞く 12

400人が抗議の声 平等法2・25集会 32

差別撤廃条約批准に48団体が結集 33

男女の労働のあり方こそ買春の元凶 34

3月26～31日 女から女へ

エスカップ(ESCAP=アジア太平洋)地域の 連帯を深める——民間女性のつどい

3・26 (月) 売買春を考える (資料費500円)

スライド「買春観光は許さない」

ミニシンポジウム「女も男も「生」と「性」をとりもどそう

3・27 (火) 私のの中の「アジア」 (300円)

いま、我が胸に照らし返す「アジア」は……。朴壽南／ケリ
ー・ローズ／林郁／駒尺喜美／鳥居千代香／小西綾／丹羽雅
代ほか——そして、あなた。●からだはぐし「田中美津

3・28 (水) 映画とスライドに見るアジア

①10時—正午 苦いひとくち(インド)火・水は(あごら)主催

②1時—3時半 われらフィリピン人(フィリピン)

③3時40分—6時 ミュージカル女優(インド)

④6時10分—9時 タイの買春(スライド)、川のはとり(ス
リランカ)
(一部変更のある場合もあります)

3・29 (木) 自立と教育 (300円)

学歴社会ニッポン。教育が男を企業人間に、女を家庭人間に、
作り上げる。しかし教育は支配の道具ではないはず。

タイのパウイーナさんはか留学生のみなさんと語り合おう。

3・30 (金) 雇用平等法・O.A—そしてアジア

「女工哀史」をアジアに輸出するな! (300円)

コンピュータ産業がねらっている女子の深夜業規制廃止
深夜労働が野放しになる——職場から怒りの声を!

3・31 (土) 1時半—5時 全体会

◆スライド フィリピンの光と影

「アジアを侵すもの」森と水と土と人と(問題提起)

「女たちは、いま訴える!」(会場発言)

「手を結ぼう!」そして創ろう平和を!!

詩・女の歌・アジアの歌・平和の歌・その他

毎晩(除く水・土曜)

6時半—9時

真生会館

(351・7121)

(国電信濃町駅下車ス
グ右手)

婦選会館(水曜のみ)

(370・0238)

国電新宿南口より
甲州街道を文化女子大
方面へ。ガソリンスタ
ンドを左折。

(各回、500円)

6時30分—9時

真生会館

(国電「信濃町」下車
スグ右手)

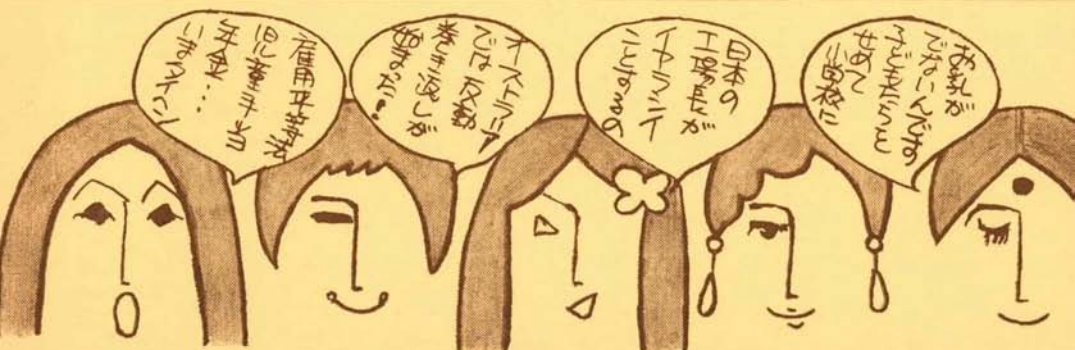
東京YWCA

(土曜のみ)

(293・5421)

お茶の水、主婦之友ビ
ル角を左折、2軒目。

(500円)



思考の逆転

平田ひと江（舞鶴市）

雪道を配りし乳を 犬が待つ

牛乳配達を暮らしの足しにする老人は、まだ眠りも醒めやらない薄明かりの道を何十年と歩き続けている。雪降りの早朝は老いの身にこたえるだろう。自転車の車輪に雪がからみつき、キンキンしむ。吹きつける雪は眼鏡を覆う。その牛乳を犬が飲む、という。

義父の句が、私の心に刺さる。老人の労働は金銭的にはまことにささやかな代価でしかあがなわれることはない。「だからこの労働は大した価値がない」のだろうか。そうでないなら、金銭的に換算できないどんな価値を、そこに見いだせるのか。

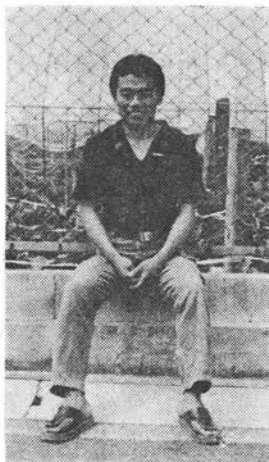
私たちは、送り手の息づかいを感じながら物と向き合う暮らしからずいぶんと遠ざかってしまったので、「一本の牛乳」を手にしたときに、そこに老人の寒さや腰の痛み、眼鏡の奥のまなざしにまで思いを寄せることはできないでいる。

この義父の身近に暮らすために、私はようやくに得た再就職の道を中断し、転居した。さんざん迷ったあげく、義父を六十八歳の齢まで養い育てたこの地から引き離すことはできなかった。そのことで私は何を失い、何を得たのかと、あれから一年になる現在も問い続けている。

河合隼雄氏は、老人問題を考えるときに「思考の逆転」が必要だと言う。つまり「社会の進歩についていけないので老人は価値がない」のではなく「社会の進歩を妨害するので老人は価値がある」、「老人は何もできないから駄目」なのでなく「何もしないからすばらしい」、というふうに。確かに、急激な社会の進歩は老人の位置を次々と奪ってきた。私たちは「何かをする」ことに忙しく、「何ができるか」「どんな働きをしたか」ということに価値を置きすぎている。でも、人はもっと奥深いものに根ざして生きていることを、時に「老人の無為」が知らせてくれる。

老いの目に映る世界がどんなものか、現在の私にはわからない。ただ、病院の待合室にうずくまる老婆たちの後姿を、以前とは違ったまなざしで追う私がいるのに気づく。それは、誰にも看取られることなく、閉ざされた部屋の片隅で息絶えた孤老たちにつらなる。

人がその一生をかけて語り得る言葉が、表現されることもなく、ただひっそりと無名性の闇に閉ざされて消滅してしまうだけだとするなら、あまりにも寂しい。老いの知恵に耳を傾け、老いの視座を内面に取り込むことは、「私が私を生きる」うえで欠かせないと思うようになった。



人間の自由と「戸籍」

(第1部)

キム ミョン ガン
京都精華大学 金 明 観

〈あごら京都〉ミニ講演会 (1983. 11. 13)

△あごら京都△では、指紋捺捺拒否を闘っている 京都精華大学の金明観先生を囲んでさやかな講演会を開きました。金先生は京都精華大学では文化人類学と朝鮮語を担当していらっしやいます。

お話は「戸籍」や「国籍」だけではなく、人間の性や性教育の問題、同性愛、近親相姦のタブーについてなど多岐にわたりましたが、今回私たちは、まず戸籍にしばらくって学習会をもちました。

最初に予定してしたのは「故郷とは何か、家族とは何か」ということでした。しかし、思わぬお話の展開のため、私たちにとって日本とは何か、日本民族とは何か、日本文化とは何か、外国人とは何か、といったことを改めて問題提起された思いでした。「戸籍」そのものの存在、その意味を改めて学習しなおさねばと考えました。そして、私たちの意識を縛っているものは何なのか、自由とは何かまで考えを深めたいと思いました。

いま私たちは、差別の根の深さ、罪深さを感じております。「戸籍」の存在が、ある人たちに對して不幸を押つけているという事実。「戸籍」からはみ出た人たちの存在。人間の登録手段である「戸籍」というものを私たちは誰のために必要としているのでしょうか。

金明観と申します。神戸で生まれて19歳まで住んでおりました。現在、京都精華大学の教員です。

『あごらミニ』を見ていましたら、結婚改姓のこと、「戸籍」のことが出ていました。この14、5年、僕が夢にまで見てうなされたのは、実はこの「戸籍」なんです。

ちょうど犬につけられた首輪のような「戸籍」を首からはずすこと、無くすることが、高校生のころからの僕の課題でした。

——私の生いたち——

私の生いたちを、まず、話したいと思います。皆さんとはあまりに違っているでしょうし、普通の朝鮮人の人とも、たぶんかなり違っています。

僕は小学校は3年間ほどしか行っていないません。病気のためと、家が2回ほど焼けたからです。何かの理由で、祖母のいる場所へしょっちゅう行かされ、そこで、自然に恵まれてたえず遊び回っていた、とまあ、そのような記憶が強く、あまり、毎日学校へ行った記憶がないのです。

中学校は、1、2年生のとき小児結核でしたし、義務教育は半分しか行っていないようです。ですから中学2年生まで時計の針も読めなかったのです。神戸と大阪の違いすらわかりません。国鉄と私鉄の意味もわかりませんでした。友達が「東京へ行った」と言っても、その東京が何を意味するかわかりません。夏休みにキャンプへ行ったと言われても、その「キャンプ」というのはいったい「食べ物」なのか「場所」なのかすらさっぱりわからなかったのです。

中学のころから興味があったのは「マンガ」と「セックス」でした。家が忙しかったので、あまり母親の愛情は知りません。まあ、子どもに食わせるのが精一杯だったのでしょう。子どもが5人いましたから……。

子ども心に女性とか性についてよくわからないなりに、母親を連想させるような裸が写っていたりするとか、男女がさわりっこしている絵なんかに独特な興味を持ちました。

ですから、「マンガ」と「エロ本」に日々明け暮れていたのです。僕の中学1年生とは今から17、8年前ですが、友達が理科とか数学とかを勉強している間、僕は毎日「マンガ」と「エロ本」を読んでいたのです。

「エロ本」は本当は中学1年生では読むことができないのですけれど、近所に悪い人がいましてね、あんまりはやらない本屋なんです。そこのおじさんが、僕が行くと、特別な紙に包んでくれていますよ、持って帰れというので……。貸本屋です。幸い病気をしていましたので、親は小遣いをずいぶんくれたのですよ。なんかうまいものでも食えということで。だから、ものすごくエロ本を読んだりしても不自由ませんでした。

中学の2年生を終わるころには、男女のセックスについて、かなり多面的な知識があったようです。

親せきが神戸でストリップ劇場をやっていましたので、そこへ毎日遊びに行ったりしていたからで、比較的「セックス」に関しては好奇心を満たすことができました。そうやって、性的な興味はものすごく強かったのです。つまり「セックス」の方面のことをもっと知りたいということで、中学校を終わるころは、自分は将来そっちの方向へ行こうとだいたい決めていました。

高校に入るころにちょうど『平凡パンチ』とか男性週刊誌が刊行され、クラスメートは競ってそれを読んでいたんですが、私はそんなことよりも、朝鮮人として主体性を持つことを考えなければならなかったのです。だから、セックスの方面の好奇心と、自分がどうやって日本の中で生きて行くのかの二つが重なりましてね、朝鮮人としての生き方を考えているか、そうでなかったら「セックス」のことを考えているというふうでした。

朝鮮大学へ受験に行きました。まず面接の前の段階で、「お前さん、何を勉強したいのか」と問われ、「僕は人間のセックスのことを勉強したい」とはっきりと言ったのです。1969年のあの学園紛争のすごいころでしたが、突然10人くらいの人が僕を囲んで、

「こういうやつがいるからダメなんだ！」

と朝鮮語で言うのです。僕にわからないと思って。最大級の侮辱でした。

僕は怖いし、何人も出て来るし……。結局、朝鮮大学の受験失敗というのがありますが、受験を拒否されたというのは僕ぐらいではないでしょうか。「受けても、絶対通さない」「もう近よるな」と言われました。

僕は日本中の大学を回りました。在日朝鮮人の問題と「セックス」のことを教えてくれる学校はないかと思って。そんなことを教えてくれる大学も教師も、当時、ありませんでした。今でもいません。おそらく、僕以外は。

18歳の時、なりたかった職業は保父さんでした。日本中の大学を回っても、保父になるには女子短大の保育科コース

だけです。どこへ行っても笑われて、「お気持ちだけは受けとります」とあしらわれました。

朝鮮の奨学金を得て勉強しようと思ったのですけれど、朝鮮奨学会へ行きましても、勉強のテーマなんか、たとえば「民族の伝統と歴史」とか「物理」「化学」「医学」などならいいのですけれど、そこに「人間の性の問題」と書くともうダメです。奨学金をもらうためのテストを受けたのですけれど、合格・不合格の通知すらもらえませんでした。朝鮮社会ではセックスの「セ」の字を言うだけで、陰でどんなひどいことを言われるかわかりません。

僕は人類っていったい何だろうと考えていました。「人間とは何か」ということと「朝鮮人はどう生きていくか」「日本人とは何か」「日本文化とは何か」「セックスとは何か」が、僕の少年期から青年前期に至るテーマでした。まるで夢遊病者のように悩んでいました。

——国籍と「戸籍」について——

いただいたテーマが「ふるさととは何か」「異国でどう住んでいるか」ですが、僕には、ここが異国だなんていう意識は全くありません。僕は朝鮮半島が祖国だともそれほど思いません。

国籍と「戸籍」の話をだいたいわかってもらえたら、今日はそれだけでも嬉しく思います。

在日朝鮮人の社会で、絶対触れてはならない分野があるのです。それは国籍です。私は十数年「国籍」の問題を言い続けていますので、私に対する批判はものすごいものです。もちろん、陰口ばかりですが。

日本では人種と民族と国籍がガッチリ一致してしまします。日本人種だから日本民族で日本国籍だ、と誰もが思っています。分離できないものと思っているのです。なぜかと言うと、「戸籍」というものがあるからなのです。

最近になってやっと、私の無二の親友の佐藤文明さんが『戸籍』という本を出してくれたので、わかつている人がだんだん増えましたが、「戸籍」というのは日本にしかありません。もともとは中国で籍貫。朝鮮半島へ行きますと本貫制度というものがあります。日本へ来ると、「戸」という家単位のものがついてしましますが、中国の籍貫も朝鮮の本貫制度も一族の系図なのです。「戸籍」は世界中にあるというのは大きな誤解です。英語とか他の国の言語に訳することができません。

人種と民族と国籍が一緒だったら、日系のアメリカ人は全部日本国民になってしまいますし、中国残留孤児は全部日本国民になってしまいます。ハワイ、ブラジル、カナダなどにいる日系人も日本国民ということになります。香港の人は香港人という人が多いし、香港国籍と書く人もいます。ジャッキー・チェンとかアグネス・チャンは、おそらく国籍はイギリスです。しかし、自分がイギリス人だとは思ってないでしょう。このように、国籍と人種・民族は一致していません。もし、一致しているものだという考えをとると、アメリカなどはどっくに分裂してしまったはずです。世界中、至る所で混乱が生じます。

なぜ日本ではこれらが一緒でなければならぬかと思うのですが、「当たり前」のことで、疑ったこともないということです。日本国籍をもっているからと思っていらいっしやるかもしれませんけどんでもない間違いで、本当は日本国籍ということとはあまり関係ないのです。むしろ、本質的には「戸籍」なのです。

「戸籍とは何か」ということですが、日本にいますと日本の戸籍法などにはあまり関心をもちませんね。しかしこれこそ、男女のセックスと、親族支配の管理なのです。外国籍の方と結婚したとき、夫との国籍、子供の国籍などで、個人のプライバシーに国家がこれほど非常識に介入する国はないですね。

——朝鮮の歴史と「戸籍」——

日本に住んでいる朝鮮人の国籍はどういうふうであったかを調べれば、「戸籍」のもっている、あるいは日本で国籍のもっている意味がわかってきます。

1910年に朝鮮が植民地支配されたのですが、その時、帝国の臣民、天皇の赤子、日本国籍者になりました。そして、当時の地方自治法、衆参議院選挙法、公職選挙法も、日本国民であるため適用されました。ところが、日本国籍で日本国民になったにもかかわらず、帝国憲法も、日本戸籍法も絶対に適用しなかったのです。朝鮮人は日本人だけれど、何から何まで日本人になってもらっては困るというわけです。

なぜかと言うと、簡単なことです。百年も二百年も、半永久的に植民地にできるとは思わなかったのです。やがていつか、植民地が独立していく、その時のことを考えていたのです。結婚の時に離婚の手続きを考えているようなもので

す。そういう意味で、日本国民だけれど、厳密な意味で、日本国民にはしなかったのです。

どうやって区分けしたかと言いますと、日本国籍者に種類をつくってしまっただけです。それまで朝鮮戸籍令はなかったのですが、朝鮮戸籍令で日本国籍者を内地籍者と外地籍者に分けたのです。ですから、ある地域の人は日本の国籍をもっていたけれど、本当は意味がなかったのです。

日本国民であれば、選挙権と保護権と兵役の義務があるのですけれど、外地籍者は兵役の義務の適用からはずされました。なぜかと言うと、朝鮮区域の日本国民に鉄砲の撃ち方を教えると、次の日、どこへ銃口を向けるかわからないので教えなかったのです。つまり、「内地戸籍令の適用を受けない者は兵役法免除」と言っていました。しかしだんだん、中国で人手が欲しくなってくると、「外地戸籍の者もこれを適用する」という言い方をしたのです。

1930年代には選挙権がありましたので、国会選挙レベルで朝鮮人が12名立候補して、同一人物が2回参議院で当選しています。当時の記録に残っているのですが、「朝鮮の方が朝鮮文字で投票するので、各開票の責任者は朝鮮文字の勉強をなさい」という指令まで出しています。

市会・県会・府会、そして町会などのレベルでは相当数当選しています。

関東大震災の時の朝鮮人殺害は、日本国民による日本国民の殺害です。法的に言って、自国民殺害なのです。朝鮮人殺害という言い方は当たっていますが、半分は日本国民殺害と言えます。

1945年になると日本は戦争に敗れました。日本に住んでいる朝鮮人は250万人いましたが、200万人くらいは1年で帰ってしまいました。その人たちの国籍をどうするかというところについて、政府は最初のころ国籍選択制度を考えたようですが、それがもしあれば、日本に住んでいる朝鮮人の方の問題は相当根底的に変わったと思います。

なぜそれがダメになったかと言うと、結局、1945年から1952年までは戦後のひとつの暗黒時代ですが、その7年間は朝鮮人にとって試験の時でした。日本自体がアメリカに占領されていたのですから、国籍を絶対さわれませんでした。そこで、国籍の中身を全部、「戸籍」で骨抜きにしていたのです。地方自治法とか、公職選挙法、衆参議院選挙法等は内地戸籍法の適用をうけないものは一時期停止するということになりました。「停止する」という言い方は、たとえば、あなたは京都市の市民であるけれども、つまり、資格はあるけれども、ガス・電気・水道を一時停止する、ということに等しいのです。剥奪するということばは、絶対に使っていません。国籍をさわれないので、全部内地戸籍

法で処理したのです。

戦争で死んだ人、原爆を受けた人たちを対象とするいろんな援護法すべて、負傷したり、死んだ当時、日本国籍をもっていれば適用されるのですけれど、条文を最後まで読んでいくと、「ただし内地戸籍法の適用を受けない人は適用を除外す」とあるのです。日本国籍を当時持っていたダメなのです。

1947年に外国人登録令が出て来ました。日本国籍者に対して、外国人という言い方をしています。これがなければ、指紋の問題とか在日朝鮮人の問題はずいぶん違っていたと思います。このころ、まだ日本政府は国籍の選択制度を考えていたようです。

ところが46年に韓国の駐日政府代表団が、GHQに自分たちを入れてくれという申し入れをしています。これを聞きまして吉田茂は、もしそんなことをされたらえらいことだ。きのうまで人権を認めていなかったんだけど、明日から韓国人がマッカーサーの隣に座ることになればとんでもないことになる、と、アメリカに正式の文書を何回も送っています。つまり、朝鮮人は共産主義者で、国内の共産主義者とともにいろんな悪いことをしている——たとえば「下山国鉄総裁事件」などは全部、共産主義者と朝鮮人の犯罪であり、彼らは日本国民であるけれども、何とか朝鮮へ送り帰したいので許可をほしいと言っているのです。朝鮮人は、国籍は日本国籍だけれど、中身は「戸籍」によって骨抜きにされていた。日本国籍のままで外国人ということでした。

そして1952年のサンフランシスコ条約で、すべて日本国籍を奪われてしまったわけです。なぜ問題かと言いますと、当時日本にいた朝鮮人の人は全然この決定に参加していません。日本とアメリカがサンフランシスコでサインしたのです。朝鮮の両政府も在日朝鮮人も、誰も入っていません。

1950年に国籍法が変わりました。当時の国籍法はまだ抜け穴的な要素もあったのですが、現行法では徹底的に厳しいものになりました。すべて在日朝鮮人対策でした。国内的にも国際的にも事実上外国人の大半を占める朝鮮人に、日本国籍を絶対触らせないようにしていったのです。

51年に難民条約が世界中で批准されましたが、これを批准すれば在日朝鮮人を自国民以上に優遇しなければならぬ場合も生じるので、日本は断固批准しませんでした。すべて今日まで、植民地支配の責任を回避することに注意しているのです。

1910年から52年までの間は、国籍差別なんかではなかったのです。日本の家制度によるところの戸籍差別であつたのでした。

——「戸籍」とはいったい何だろう——

「戸籍」というのは、たとえば○○さんというお宅があるとすれば、○○さんが20歳になって親から分籍をした、婚姻をして△△さんの籍に入れる、入れない、出生した、あるいは養子をもたらした、養子に出した、死亡した、というような家庭の事情をすべて登録したものです。日本にしかありませんから、日本人にしか通用しない民族支配であり親族支配なわけです。

そういうものと国際法上の国籍とがつながっていくことは、本来絶対にはずす。個人のプライバシーの問題と国籍は絶対につながらないはずですが、日本ではビタッと合っているのです。いろんな偶然はありますが、なぜこういうことがありうるのか、ほかの国ではどうなっているのか調べてみるとおもしろいでしょう。

他の国では、その国にだいたい3～5年住めば国籍が取れます。3年の間に、麻薬による犯罪とか、売春行為とか、禁固1年以上または懲役とか、政府転覆の運動をしなれば、取ろうと思えばその国の市民権が取れます。取る取らないは自由でよし、取らなくても、その国の市民と同等の権利がもらえます。

しかし日本では一切もらえません。日本は戸籍国家ですから、非国民か、もしくは国民か、しかありません。こういうふうに、「戸籍」は身分登録制度なのです。そして、外国人（日本の国籍をもっていない人）に対する徹底的な排外主義の根本になっています。こういう例は、日本以外どこを捜してもありません。

「戸籍」の問題は、別の見方をすると、いったい何でしょうか。

私は20年も前から、いや、それこそ物心ついたころから「人類のセックス」の問題をしつこく追求しておりますが、これをやらないと「戸籍」のことが充分にわからないと思います。ですから30歳前後の男で「戸籍」のことをしゃべれる人は非常に少ないと思います。

10年ほど前、女性の解放グループがたくさん生まれてきました。昔は百人ぐらい、パッパッと集まったのです。合宿

だって、百人ぐらいバースと来るわけです。男はたいてい僕か佐藤文明氏かくらいでした。佐藤文明氏は、髪の毛が長くて優男で非常にソフトな感じの人です。女の味方!? という感じです。僕はそのころ、「ギンギラギン」でした。日本の男も来ないのに、よりによって朝鮮人の男が何だというわけで、ひどく冷たい眼で見られ続けてきました。「あいつはおかしい」とか「ああいうタイプの男が女性解放を言うのは何か裏があるのだろう」「信用できない」とよく言われました。またそのころ、僕は名前も肩書も何もなかったわけです。ただただ不思議な個性というだけでした。佐藤文明さんはそのころは「戸籍係」ですから、「だったら戸籍のことは詳しいだろう」と、女の人の票がずいぶん彼に行きました。「戸籍」をまず疑うということをしなければ、すべての男女関係、つまり性関係は異性関係に向かってしまふ。——そこには必ず同性愛等の人に対する差別が生まれると思います。かならず男女間の人間関係を異性関係に向かわせて、さらに、その関係を婚姻関係に向かわせるということは、婚姻関係の戸籍セックス化です。でなければ不倫の関係、という意味をもち、「戸籍関係」にさせるということです。

日本人同士の身分登録に終わればそれほど問題はないのですけれど、国籍と結びついて、「戸籍」に入れる入れないというのは、実は外国人に対して差別になっていきます。

帰化という制度があります。しかし、身内に心身障害者がいたら、一昔前はとても難しいことでした。ですから帰化制度ほど心身障害者差別的の権化はないと思います。心身障害者は血統的に悪いという優生思想なのです。

本人の収入が、35歳のサラリーマンの平均の何倍かないと帰化できませんし、過去に組合活動とか学生運動をしていたらこれもダメです。だいぶゆるくなってきたてはいますが……。また、お兄さんが「やくざ」だとかお姉さんが「夜の蝶」だと帰化できません。堅気の仕事でないからダメなのです。もちろんトルコ嬢はダメです。政治団体に加盟していないことも条件のひとつであるなど、とても厳しい、諸外国にほとんど例のない制度なのです。

一番問題なのは、10本の指の指紋を取られて、その上名前を変えなければならぬという徹底した身分選別思想です。帰化制度という方面から光を当てていくと、日本人の「戸籍」とは、いったい何だろうと思います。

皆さんは日本人として自己形成というか自己認識したのはいつかと問われたら困るでしょう。そんなことを意識した覚えはないと思うでしょう。

私も日本の学校へ行っていないせんし、民族学校もさつき言った理由であまり行けませんでした。姉と妹は行っていますが、弟は行っていないせんし、母は全く文字力をもっていないせんから、家の中では下宿しているようなもので、朝鮮語を話すと、親子相互でわかりません。

ですから、家の事情のせいですが、ことさら朝鮮料理・朝鮮文化がこれだというのがわかりません。ほかと比較しませんからね。自国の文化についてとりたてて疑問をもちませんでした。朝鮮民族、朝鮮文化について、具体的に意識することもなかったのですが、外国人登録をすることで、はっきり言えば、他者から朝鮮人であると強制されて、そこで、自己否定・分裂がおこりました。14歳の時です。

そのころの私は、いったい朝鮮人とは何か、朝鮮民族とは何かについて全く知識もなく、まだ自己を肯定したり、自己を構築したりできずにいるのに、たった1枚のハガキで、突然「あなたは日本人でないから、あなたは朝鮮人だから、外国人なのです」とされてしまったのです。戸籍思想の強制です。

日本人とどこが違うのだ、どこへ行けば、誰が教えてくれるのだ。どうして朝鮮人なのだ。朝鮮人とされてしまつたら、良くないことやひどい目に遭いそうなのに、なぜ私を朝鮮人にするのだ、私をどうする気だ、と毎日のように悩み、叫びました。両親を困らせるような抗議もしました。どうして朝鮮人に産んだのかと。かつて日系アメリカ人二世が、アメリカの土地で、「どうして日本人に産んだのか」と同じように言ったことを、日本の皆さんに知ってほしいと思います。

外国人登録証の「外国人」という言葉が痛烈でした。あまりにも決定的でした。外国人という言葉は、子ども心にとつともなく冷酷なものに響きました。「外国人は邪魔者、よそ者」という意味以上に冷たく思えました。

子どものころから、学校へもあまり行かず、海や野山を遊びまわっていた私は、いつも非常に自由でした。何者からも制約も束縛も受けずに遊びまわっていたのです。私は非常に自由でした。まさかこのような大きな鎖が私に課せられるとは思ってもいなかったのです。

私ははじめて、自分はつながれてしまった、と思わざるを得なかったのです。

(まとめ 塚崎美和子)

アジア・太平洋地域における婦人問題事情

東京都婦人問題国際シンポジウム

ESCAPをひかえた2月7日、東京都のESCAPシンポジウムが開かれた。いろいろな意味で考えさせられることの多い集会だったので、その要旨を紹介したい。



A. E. ブロノフスキー
(オーストラリア)

1941年生まれ。アデレード大で英・仏・ラテン語、哲学、比較言語学を専攻。オーストラリア大日本語科卒。



D. R. ジャマルディン
(マレーシア)

1935年生まれマラヤ大及びカイロのアメリカン大卒。日大使館人として3年前来駐日。1男2女の母。



L. コシャーノン
(タイ)

タマサート大経済学部助教授。同大卒業後、ロンドン大、シカゴ大、オレゴン大で学ぶ。アジア経済研究所客員。

◆ 高度成長の中で

影の部分も多い女性（日本）

樋口 最初に、日本の女性が今かかえている諸問題をお話しします。

ご承知のように敗戦によって日本の女性の法律・制度的な地位は一変したと言われます。戦前は選挙権はなく、家族制度上の女性の地位は禁治産者扱い。法律的な契約は結べず、父親がいる場合は親権も持てなかったのが、一性別によって差別されないことを明示した新憲法によって、法律・制度的には大幅に前進したことは事実であり、日本の女性にとっての近代は1945年以降ではないかと思っております。

30年後の1975年には国際婦人年を迎えましたが、その少し前から国際的に広がってきたフェミニズムの波の中で日本にも新しい運動が起り、そこへ国際婦人年の波が合致

しました。その間、日本は目を見張るような経済発展を遂げ、物質的生活水準の高い国になりました。しかし日本女性の地位については影の部分も指摘しなければなりません。

第一は、職場での地位。ここ数年、賃金格差は開く一方で、数年前、男100に対して女56、57までに縮まった格差は、昨年は52・8に拡大しました。勤続年数や年齢をそろえて比較しますと100対80くらいになりますが、このような大きな格差は、パートタイマーと呼ばれる無権利、低賃金の女性が5人に1人を超えたこと、いったん離職すると、パートの仕事しかないこと、高卒女性の初任給を1とすると0.5〜0.6にしかならない事実を反映しています。家制度の中で底辺に置かれていた女性が家のために働くというかつての女工哀史は、いまパート哀史として日本中に広まっています。昨年交通遺児育英会が発表した統計では、交通遺児家庭の母親の平均月収は

9万円台。これで自分と子ども2人を養っている。昭和51年当時は一般雇用者の7割程度の収入だったのが4割台に下がっています。40代の母親が2子をかかえて生活保護を受けるとすると、東京では12、13万になりますが、それを下回る収入しか得られないのです。

いま日本の女性の最大の課題の一つは差別撤廃条約批准に向けて男女雇用平等法を作ることですが、現実の職場では女性は補助者としてしか位置づけられていない。賃金体系や女性の地位については敗戦以前の法的地位の考え方が引き継がれていることを指摘したいと思います。

青少年問題研究所が総理府の委託を受けて行なった小学生の意識調査でも、日本の子どもの精神的な貧しさが浮き彫りにされています。日本の女の子がなりたいたいのもののトップは家庭の主婦で、職業としては教師・保母・栄養士で7割を占め、技術者・経営者などはほとんどない。欧米諸国に比べても、アジア諸国に比べてもバラエティがありません。

また昨年4月に発表された世界6か国の女性の意識調査では、伝統的な性別役割の意識がフィリピンを含む他の5か国よりもはるかに強いことが明らかになりました。

差別撤廃条約の批准を前に、国籍法は解決の見通しがつきましたが、教育制度では、中学では技術・家庭科で男女の相互乗り入れが多少実現しましたが、高校では女子のみ家庭科必修で、法律制度上解決しなければならぬ大きな問題がまだまだ残っています。

国連婦人の十年の国際的連帯の中で、政府レベル自治体レベルでも男女格差は正に取り組まざるを得なくなり、少しずつ変化はしていますが、伝統という面から光をあててみると、恐らく、世界のどこよりも、アジアのどこよりも伝統という色に引きずられやすい傾向も根強く残っています。その象徴の一つとして、昨年のレコード大賞の歌詞をご紹介して終わりたいと思います。親にそむいて駆け落ちする若い人の自立と叛逆の歌ですが、2人が逃げるのではなく、女「連れて逃げてよ」男「ついておいでよ」(笑)。そして、主体的な人間として向かうべき目的地についても、女「どこへ行くのよ」男「知らぬ土地だよ」(笑)。平等・発展・平和のスローガンのもと、私どもは、地獄の底へでも、戦争への道へでも、黙ってついていくのか、ということを目に問いかけつつ、また、婦人の現状について怒りの乏しい日本女性の中身は何

かを問いかねながら、アジアの皆様とご一緒に進みたいと思います。

◆めざましい

オーストラリアの女性解放

ブノフスキー 去年からオーストラリア大使館の一等書記官として働いています。来日前は、デンマーク・イラン・フィリピンなどで働き、各国の生活を調べる機会がありましたが、どの国でも情勢はちがっても女性の目標は一つ、即ち男女差別のない社会をつくることだと思っています。

オーストラリアの労働人口の38%は女性で女性の45%は働いており、その3分の2は既婚女性、3分の1はパートタイマーです。失業率が増加する中でも女性の就業率はふえています。

1960年から、男女同一労働同一賃金となり、国家公務員と先生は、有給の出産休暇・育児休暇・育児時間があります。何年前かで女性には認められなかった電車・バス・飛行機の運転ができるようになり、裁判官からオートバイを乗り回す警察官まで、女性が活躍しています。

労働組合では女性の声は弱かったのですが

最近女性組合員の数がふえ、力を増してきました。

次に、オーストラリアの女性の生活を紹介してほしいという要請ですので、私の個人史をお話ししたいと思います。私がオーストラリア女性の代表としてふさわしいかどうかはわかりませんが……。

私は1941年、戦争の時代に南オーストラリアのオールベリーで生まれました。父はかなり保守的で、女の役割は家庭にあると思っていました。母は黙っていて父と議論もしませんでした。父とは違う考え方であることがだんだんわかってきました。

私が大学にいた1962、3年にはまだ女性差別があり、苦しみました。女性は結婚すれば仕事をやめ、会社は女性を専門職としては全く求めませんでした。給料も20%以下でした。若い私たちはびっくりして、タイムカードを押しませんでした。

しかし、私は母の生活を見て、家庭にだけ専念する生活は望みませんでした。職業も結婚も子どもも全部ほしかったのです。女性たちはだんだん主張を始め、「自分の受けた教育は男性と同じだ」とか「なぜ月給が少ないのか」とか「結婚したらなぜやめなければならないのか」とか言いしました。男たちは「子どもが出来たら専門的な仕事は続けられない」と言いました。

当時、産児制限は難しく、中絶は法律違反でしたので、妊娠した女性は結婚しなければなりません。このため女性は男性の囚人のようでした。男たちは「女は結婚すべきだ」「仕事をやるべきだ」「低い給料でいい」と決めていました。でも60年代に産児制限の研究が進み、容易になり、安くなりしました。これが女性の生活に大きな変化を与えました。

私はそのころ外務省に入り、同僚と結婚をしました。結婚すると女性は辞めなければなりません。主人の最初の任地は東京で、1965年来日。後にユーゴやイランに行き、子どもが2人生まれました。その間私は新聞記者として働き、小説を2冊書きました。

74年にオーストラリアに帰りましたが、労働党の政府になって男女平等が実現し、私は外務省に戻り、次の任地マニラには主人とともに赴きました。私たちのような夫婦は外務省では16人います。外務省に入る若い人たちの半分が今は女性で、給料も平等です。ただ、

夫が大使になりましたら、規則で同じ大使館に勤めることができないので、もう一度転勤することになりますが、これは仕方ないことだと思います。しかし苦しいでしょう。

男性候補者の評価表で大成功

オーストラリアは新しい国で、女性の地位は急速に変化しています。婦人団体はずっと前からありましたが、最近役割がだいぶちがって来て、政治的・経済的・法律的目标に圧力をかけています。これまでは、女は、妻か娘、母として見られていましたが、現在は個人として見られるようになりました。

オーストラリアにはアボリジニーという原住民が住んでいましたが、女性の役割は非常に大切なものとされてきました。1788年に白人が突然来てから、アボリジニーの生活には厳しい影響があり、女性は女中になったり白人と結婚したりしましたが、主に都市から遠く離れた地方に住むようになりました。

白人女性も、1788年から住み始めました。ご承知のように、最初のヨーロッパ人の中には囚人がいましたが、その15%は女性でした。それ以外の女性は、産業人・軍人・自

由業の奥さんと娘でした。それらの女性と四人女性の役割は大きく分かれていました。良心的な人たちは旧式な社会を捨てようとし、その結果、オーストラリアの女性は1894年、世界で最も早く投票権を獲得しました。同じころ学校に進学することもできるようになりました。

1967年から、女性の専門職への進出が著しくなり、出産休暇・育児休暇もとれるようになりました。最近では男性が家で子守りをすることも珍しくなく、夫婦ともパートで働く人、女性がフルタイムで働いて男性が勉強する人もいます。結婚しないで同棲する人も珍しくありません。

70年代から多数の女性は労働党を支持し、労働党は女性の意見をよく調べ、差別をかなり是正しました。昨年の選挙で落選した人は女性の支持が得られなかった人と言われています。何年前か前まで女性の有権者は男性より保守的でしたが、現在労働党の支持率は、男女とも同じ52・5%です。

1970年、総選挙の前に婦人団体は候補者の調査をし、女性についての質問をし、答えと評価を新聞に発表しました。若い女性について冗談を言ったり、調査に失礼な態度の

多い候補者は低い点になりましたが、これは選挙の結果に強い影響を与えたようです。

80年代に入ってから、獲得した権利を、保守勢力の巻き返しから守ることに関心が集まっています。女性の能力は高いのに、平均賃金は男性より低く、企業の半数に差別が残っています。女性の政府代表はふえたものの比率は少なく、国会議員は20数人、大臣は文部大臣だけが女性です。男性は既得権をなかなか手放そうとはしませんが、国会議員の数は65年に比べればふえています。

国連の中の婦人問題では、オーストラリアは常に指導者でした。1978年、国際婦人問題顧問会議を設立しました。この会議は、女性に男性同様の機会を与えることを政府に勧告しています。同じ年、婦人問題協議会もつくられましたが、これは個人的問題の解決にあたっています。

80年7月、政府は女性差別撤廃条約に調印しましたが、これは批准する前に各州の賛成が必要で、深刻な問題でした。しかし83年8月に批准しました。現在国会では男女差別反対法案を審議中です。85年のナイロビ会議では「婦人の十年」の結果が話し合われる予定ですが、10年前と同じような問題がたくさん残

っているかもしれません。国連加盟国の多くは開発途上国であり、私たちは法律や雇用の平等などを論じているのに、途上国では女性の心配は、食糧・水・子どもの病気など具体的な問題に集中しています。

現在、地球が危機的状況にある中で、女が男と平等になるとともに、男性の女性化が必要ではないかという意見もあります。あるアメリカのフェミニストは、男性は女性の知性や、わがままでない感じを見習って、自分自身を解放することが必要だと言っていますが男女ともに解放されるなかで地球の危機を乗り越えたいと思います（拍手）。

樋口 ありがとうございます。プロノフスキーさんが外交官試験に合格なさったときは新聞に大きく出たそうです。日本では今でも新聞に出る、と申しましたら、オーストラリアの15年前くらいの感じですね。と言われました。女性が参政権を行使することによって変わってきたことは私たちに大きな希望を与えてくれます。

では続いてマレーシア大使夫人のラーマ・ジャマルディンさんのお話をうかがいましょう。

◆法的には平等、

だが進出したがらない女性

(マレーシア)

ジャマルティン オーストラリアの方がお話しくださった、何年か前の婦人の状況は私どもの国と非常に似かよっています。

マレーシアの人口は1400万人。1957年に独立しましたが、マレーシアの女性が平等を求める努力を始めたのはそれよりだいぶ前のことです。第二次大戦は婦人の平等に大きな影響を与えました。ナショナルイズムが生まれただけでなく、婦人もこれによって目覚めました。婦人はそれまであまり家の外に出なかったのに、男に代わって仕事をするようになり、勤労婦人は非常に多くの貢献をしました。そして男性と一緒に、国の独立と行政の形づくりに参加しました。

独立後は、婦人の地位向上に、さらに努力し、差別の根絶に力をつくしました。法律もつくりましたが、中でも最も重要なのは、1962年に採決された同一労働同一賃金法です。国際婦人年の10年以上前に雇用の平等を確保したわけです。

今日、婦人はさまざまな活動分野に進出し

ていますが、これは婦人リーダーたちの持続的な努力のためものです。また、国内最強の政党も、婦人の非常に活発な活動と支持によって実現し、婦人に有利な法律の成立に寄与しました。

マレーシアにはボランティア組織がたくさんありますが、これも婦人の地位向上に貢献しています。1982年には67の組織があり、セミナー・見学会・文化的展示会を開いたり、教育・経済・芸術・健康・衛生・宗教・法律等について活発な活動を続けています。これらの婦人ボランティア組織は、婦人発展統合諮問委員会に統合され、効果的な活動を続けています。すなわち、婦人の問題についてはこの委員会が政府にいろいろな助言をしています。

婦人は、労働力でも大きな意味を持ち、就労率は男性とほぼ同じです。現在、国が非常なスピードで農業国から工業国に変わろうとしています。男性と同じ待遇を受けるように婦人組織が働きかけ、全く差別のない状況になっています。

婦人に不利な法律の改正には婦人弁護士連合会の努力が大きくあずかっています。現在の改正が必要な2つの法律がありますが、それ

は深夜勤と出産休暇に関するものです。婦人の就労率は男子とほぼ同じですが、ほとんどまだ低賃金の仕事についています。

1982年には、国家公務員の文官の28%は婦人が占めていますが、その52%は単純事務で、管理職は7%です。民間では経営レベルの仕事についている婦人はさらに少数ですが、83年の統計では、大学卒の40%が婦人です。から、官民両分野で女性がマネージメントに参画できる可能性は、数としては非常に高いと言えます。

それにもかかわらず高い地位にある婦人の数が少ないのは、主に伝統的な価値観や社会通念が原因です。婦人自身がそのような価値観をもっている場合も多く、リーダーシップをとりたがらないとか、高い地位につける資格があるにもかかわらず、その地位につきたがらないということがありますが、それは現実にはリーダーシップをとった場合に感じるであろう緊張感やストレスに対し十分な準備がない、あるいは自信がないことに由来しています。このため、自由で高い地位はほとんど男性に独占されています。

これを改善するためには、たとえば学校の教科の中で男女が全く同じに教えられること

とともに、母親の役割が重要です。「ゆりかごを揺する手が世界を治める」ということわざにも示されるように、母親のしつけは将来を決定するものです。母親としての婦人の役割は、婦人の状況を向上させる意味でも大きいのです。

マレーシアには、婦人の向上を妨げているもう一つの障害があります。法律と政策です。現在、婦人の雇用を差別する法律や政策はありませんが、経営者たちは、常に女性ではなく男性を求め、ことに建築・技術・自動車産業・電気工事などは、伝統的な男の職場になっています。

マレーシアの婦人は、別のことに進出しています。各方面でのボランティアサービスです。ボランティア組織はほとんど女性によって構成されています。私は我が国の婦人の地位向上について非常に誇りを持っています。とくに主婦が家事を担うという伝統的な社会の中にありながら、目標をかなり達成したことを自負しています。(拍手)

樋口 戦後、新しい国づくりの中で女性が社会に参加した歴史、そしてリーダーシップをとれるようになったのにもかかわらずとりたがらないというお話は、日本の現状にも共通

していると思いました。

労働者が昨年発表した「地域活動の中で女性の社会参加」によると、PTAとか子ども会に女性に参加している率は非常に高いのですが、その中で女性が長になっているのはわずか4%ということです。マレーシアの女性の生き方に通じる部分も多いのではないのでしょうか。

では続いてタイのコリー・コシャーノンさんにお話をうかがいましょう。

◆女性の40%が就労……

しかし――

(タイ)

コシャーノン 私は4つの部分に分けてタイの婦人事情をお話したいと思います。

「一般的状況」 むかしタイでは男性が主人であり支配者でした。家庭内でそうだっただけでなく、社会でもそうで、婦人は家庭を守るものと考えられ、特別な教育の必要はないとされてきました。豊かな家に育った婦人は

どのようにして家をまとめていくかを学ぶ機会を与えられましたが、貧しい家庭では、どのように働くかという教育を受けました。男性はお寺で教育を受けましたが、婦人にはそ

れが許されませんでした。

家庭の中でも意思決定するのは男性で、女性を支配し、いろいろな威力を発揮しました。未亡人は再婚できるといふ恵まれた立場を与えられていましたが、女性が社会に出て働く場合、家庭も守らなければならず、大変な仕事を担わなければなりませんでした。

世界全体の傾向が変化するなかで、タイの社会情勢も変わり、女性の役割も変わってきましたが、この変化は非常に遅々たるものでした。

アジアの各地域が植民地化されている間にタイ王朝ではできるだけ西洋の風潮をとり入れ、1921年には男女とも義務教育制となりました。職業教育の機関は、まず男性を対象に設けられましたが、その後女性にも道は開かれました。また戦後、女性も高等教育を受けるようになり、奨学金を得て男性同様に勉強する人、外国に留学する人も出てきました。

1934年に立憲君主制になって以来、女性の立場は変わりましたが、変化はゆるやかで、女性が議会に立候補したのは1941年でした。以来、必ず女性が立候補し、何人かの女性が当選しており、政府の重要なポスト

につく人も、国際的な活動をする人も出ています。

1975年の国際婦人年以來、政府は国家レベルとして運動する組織づくりを担い、婦人問題特別委員会を設置して、女性の社会的役割を向上させようとしています。学習会や出版物刊行のほか、法的整備も進み、たとえば職業上の制約は撤廃され、就労分野は拡大しました。女性を守るよう、労働法も改正され、このような動きにつれて、社会全体が女性の立場に関心を示すようになってきています。

政府は78年、経済社会開発庁の中に「婦人の発展のための実行委員会」を設置し、人口・経済・教育・政治・社会開発の面で調整しています。同時に「婦人問題課」が設けられ、国家開発計画の中で女性の役割をはっきりと打ち出しつつあります。

しかし、世界の動きと比べると、まだ問題の多い面もあります。タイの男女の頭の中にある女性像、男性像も少しずつ変えていかなければなりません。

世界のどの国でも、法律的には男女平等が実現してきたのに、社会的・経済的な機会を女性がまだ十分に活用できていないことが問題になっています。この原因は伝統的な性別

役割だと言われます。憲法では男女平等なものにもかかわらず、結婚・離婚・親権・贈与・土地所有権などでは実質的な平等がありません。古来、タイの女性は苛酷に圧迫されたり差別されたわけではありませんが、女性は家庭に在るべきものとされ、主婦として、母親としての役割が重視されてきましたが、娘として母として主婦としての役割は、みな男に従うものでした。しかし西洋との接触が広まるにつれ、ここ30年ほどのことですが女性の教育の向上がみられるようになりました。多くの女性が学校教育を受けるようになった結果、労働力の主要な部分を占めるようになったのです。

とはいえ、1970年代には、男女差別はまだ制度上にもみられました。たとえば結婚が認められる年齢は男17歳女15歳、姦通罪は女だけにあり、男にはありません。離婚すると特別な約束がないかぎり親権は自動的に父親にわたっていました。70年代後半に法律の改正があって、このような女性の立場はかなり大きく前進しましたが、現実とのギャップは依然としてあります。たとえば、女性は人口の半分ですが、就学しているのはその半分、全就学者の47、48%が女性です。専攻科目は

男性が法律・農業・経済であるのに対し、女性ほとんど人文系。こういうことが、職業上の差別、昇給・昇進・賃金に大きく影響しています。女性の40%は就労していますが、最も多く活躍しているのは農業で、工業とか輸送業、情報関係とか、専門職についている人、管理職は非常に少ない現状です。

同一労働同一賃金法はあるが

〔経済上の役割〕 家族計画が普及して、就労についての女性の考え方が変わり、労働人口の約半分は女性が占め、就労時間も男性と変わりません。とくに農村では女性が週55時間働いています。しかし製造業などに就業している女性の13は最低賃金を得ていません。家族が貧しい場合には、このような低賃金でもやむなく仕事を続けています。女性が高い地位に就こうとすると、非常に大きな困難を克服しなければなりません。

タイでは、男女差別以上に都市と農村の格差が大きいのですが、農村の女性は、家庭を守ってしかも畜産や栽培農業に従事するのが常です。農閑期には工場などで働くこともありますが、こうした人たちは労働人口には含

まれません。

〔婦人労働者と法律〕 タイの労働法には女子労働者保護規定がいろいろ設けられています。

たとえば、女性を身体的な苦痛や過酷な条件のもとで働かせることは禁じられています。出産休暇は保障されていますし、同一労働の場合は賃金格差は許されません。しかし現実には、与えられた条件を受け入れなければ働くことができない状況です。女性は定着性がないという点で嫌われ、定着を必要としない職場に低賃金で雇われており、とくに労働集約的な職場に多く働いています。たとえば繊維産業を支えるのは女性ですが、非常に低賃金です。最低賃金法では男女の最低賃金は同一ですが、実際には小さな製造工場では男性より低賃金で働かされていますし、産休もとれません。出来高制の支払いも多く、日給に換算すると女子は非常に低くなっています。また若い人たちが工場で働く場合は試備期間を設けられ、その間は安い賃金で働かされます。試備期間は最高60日ですが、60日たつとクビにして、また新しい人を試備します。試備という名目で何年も働く女性も少なくありません。労働運動は次第に活発になってきましたが、女性が代表者になることはな

く、女性の要求するものに、きちんとした答えが返ってくることもほとんどありません。

〔婦人政策〕 政府機関と非政府機関のいくつかは、女性の経済的、福祉的立場を向上させるプログラムを組んでいます。家族計画や栄養、農閑期の農村女性に対する訓練も定着しています。職業のトレーニングコースも設けられ、非常に高い参加率となっています。

このようなプロジェクトに参加した女性は、必ず所得を向上させることができます。ただし、資金面や、この活動を手伝うボランティアの不足などで行きづまることもあります。また、訓練内容が、保健・家族計画・家内工業といった伝統的な女の仕事であることも問題です。こういう活動に参加した女性は、必ずしも家庭にとどまる必要はないと思っていますが、外で仕事を見つけることは難しくなっています。

都市での女性の仕事はサービス業・情報業が多く、農村では農業が主ですが、農村女性の地位は非常に低く、都市でも、高度の資格を必要とする職業に女性がついていることは稀です。女性の経済進出のためには公教育が重要だと思います。(拍手)

Q & A

樋口 農村女性の地位、法整備と現実のギャップなど、私たちにも思いあたることの多いお話でした。

では、皆様方からの質問の中で特に多いのを、いくつかかかいたいと思います。

まず雇用の問題です。母性保護はどうなっているのか、産休をとると昇給・昇格が遅れても当然という意見は諸外国ではどうか。再就職、職場復帰の条件は、などについて。

プロノフスキー 産休は有給のものも無給のものもありますが、元の職場に復帰できます。たとえば外交官の場合、産休を2、3年とっても、元の職場に戻れます。私の友人は出産のためオーストラリアに帰りましたが、出産後また東京の大使館に戻る予定です。民間企業はこの点遅れていますが、保障するところも徐々にふえてきました。産休・育休も獲得し、企業が雇う者の要求を聞き入れる態度がないときは訴訟に持ち込めます。女性差別をした企業ということで裁判の場に引き出されるわけです。

すべての州に、婦人問題の訴訟を扱う機関

があります。オーストラリアは出産率も低く、人口増加率も低いため、出産はよいこと、育児は大切なこととされ、国はそれを保護する立場にあります。

ジャマルディン マレーシアでは月収700ドル以下の女性には出産休暇がありますが、日雇い労働者にはないため、政府に「すべての女性に60日間の出産休暇を与え、給与プラス出産手当を」と要求しています。

コシャーノン タイでは出産休暇を請求できません。30日間は有給です。要求すれば延長できますが、以後は無給です。ただし、これは政府や自治体、大企業の職員に限られ、パートタイマーや零細企業では保障がありません。乳幼児の世話はおばあさんなど、家族がします。農村では兄弟がめんどろをみることで多く、問題はありません。

樋口 続いて多い質問は家族の形態です。大家族なのか、その中での女性の地位や問題点をおたずねします。

コシャーノン タイには、何世代にもわたる配偶者の親類まで含めた大家族が農村には残っており、家長は父親です。婦人の役割は非常に尊敬され、父親同様母親も尊敬されています。財布を預っているのは妻で、強い発

言権があります。しかしアジアの常として、表面は男を立てています。強い立場を示すのは賢明な妻ではないとされています。

都市には大家族は少なく、子どもたちは老人との同居を好みませんし、老人も若者との同居はかなわん、と言っています。結婚すると独立した新家庭を持ち、核家族はどんどんふえて来ています。しかし家賃も高く、ローンもあり、共働きがふえ、意思決定も共同で、という家庭がふえています。

ジャマルディン タイと似た状況だと思います。マレーシアは年配者を非常に尊敬し、結婚後も娘は母親と住みたいと望みます。伝統が強く残っており、これは非常に大切なことだと思っています。

樋口 では、女性が働くにつれて青少年の非行や女性の犯罪もふえているが、これをどう考えるか……。

フロノフスキー その質問は基本的な誤りに基づいています。子どもの非行にはまず母が責任を持つということが間違いですし、女性が外働きする場合は育児の責任を捨てるというのも間違いです。女性の犯罪の増加も就労とは何の関係もありません。そういう言い方がされるとしたら女性をなるべく外へ出さな

いようにしようとする動きかもしれません。全くくだらない考え方です（笑）。

子どもの問題が起きると、よく、「あなたが働いていたからだ」と言われますが、これも間違いです。育児には父も母も責任があります。また私が見聞するところでは、働いている女性は非常によく母親の役割を果たしており、子どもによい影響を与えています。家に閉じこもっていないなければならないミセラブルな母に対し、非常にハッピーな母だと思います。（拍手）

ジャマルディン マレーシアでは母の不在の家の子が麻薬中毒を起こすといったことが大きな問題になっており、母の就労がよくないと言う人もいますが、麻薬はマレーシアの問題だけではなく、全世界の問題です。しかし母親たちは、自分が働いていることが悪いのではないかと後ろめたい気持ちになり、仕事を辞めるケースが多いようです。アジア的な感覚かもしれませんが、子どもに悪いことがあると、それは全部母親の責任といった考え方があると思います。多くの母親は、子どもがそんなことになるくらいなら仕事を辞めるという気持ちになっています。

コシャーノン 私個人は母親の就労で子ども

が非行に走るとは思いませんが、子どもが昔より悪くなったということは、何か原因があると思います。ただ、子どもが悪くなる原因は複雑で、単に母親の就労だけが原因ではないと思います。今日の社会はあまりに複雑になり、たくさん働かないと十分な収入が得られないので、子どもに必要な助言を与えないとか、子どもが多すぎて学校に収容しきれないため、交替で教室を使っている間、町で遊ぶとか、悪いテレビやマンガなどの氾濫もあります。日本のマンガには非常に悪いものが多く困っています。家に親がいないと、毎日テレビを見てマンガを読みふけます。私には子どもがなくてよかった、うまくやった、と自画自讃したいくらいです(笑)。姪や甥を見ていますと、学校でも大変、学校の外でも問題……。親に同情します。非行の原因は社会の複雑さにあり、就労のせいではないと言えると思います。

樋口 子どもの問題には父親不在の状況こそ大きく影響していると思いますが、それぞれのお国での男性の態度はどんなでしょう。また性別役割分業を変えるよう、女性の側は男性にどう働きかけておいででしょう。

プロノフスキー オーストラリアでは両極端

の意見があり、保守的な男性もいれば、フェミニストを自称する男性もいます。この中間に、しようがないからなりゆきを見守ろうという人たちがいます。表面的には協力的な姿勢を示しながら、本当はできるだけ抵抗しようという人もいます。しかし女性の地位向上に強く反対する人の立場は非常に弱くなっています。いちばん気をつけなければならないのは、協力的な顔をしながら、本当はそうじゃない人たちです(笑)。地面の下で足を引っ張っている人たちに目を向けていかなければならないと思います。こういう人たちは諸外国にもいると思いますが、彼らは意外に力があり、しかもその力を守っていかうとします。そのためにはどんなことでもします。たとえば反対勢力の力を半分にしようとし、そのためには少年まで動員します。こういう圧力に対して私たちは抵抗しています。静かな抵抗から、大声の抵抗まで……。

ジャマルティン マレーシアの国教はイスラム教です。イスラム教をベースにして生活しています。

コシャーノン タイの男性は女性に対してフエアです。近代教育制度になって以来、女性の高学歴者はふえ、大学教授80人のうち、女

性は40人です。女性重役もいますし、能力さえあれば高い地位につけます。

樋口 これは、たいへんおたずねしにくいことですが、売春についての質問がたくさん寄せられています。各国のご事情をお話しいただけますか。

コシャーノン 私は、マッサージバーラーとかトルコ風呂については個人的には知りません。これらと並列にいろいろなことも起こっているようですが、原因は貧しいからです。親が承知している場合が多く、望まないのにさせている——しなければならぬ場合が多いのです。

こうした仕事に就けないような法律や条令をつくれないうことと自体が問題です。たしかによくないことで、禁止しなくてはなりません。しかし、たとえば牢屋に入れるといったことは解決策にはなりません。婦人活動家の中には、たとえば組織をつくって解決策を考えている人たちもいますが、こういうことは問題の始まりではなく最終的な問題です。何人かの人たちが非常に不幸なことにこの仕事に就いている、ほかの人たちのやりたくないことをやっているのは一つの事実です。では社会はいったい何をしたらいいので

しょう。少なくとも国は何かができるはずで
す。たとえば検査を義務づけるとか、このよ
うな娘たちがこの仕事を続けるのなら、社会
に対して害にならないような何らかのサービ
スを提供するとか……。もちろん、これに対
する反対の考え方もあるかもしれません。私
の答えも明確だったかどうかよくわかりませ
んが、彼女らをイヤな奴として責めるとか恥
をかせるのではなく、このような仕事に就
かなくてもいいようにするために何をしたら
いいかを考えなくてはなりませんし、もしこ
ういう状況が続くなら、彼らの生活を変える
とか、そういうことも考えなくてはなりませ
ん。

ジャマルティン マレーシアでは売春は違法
です。

性的な抑圧、圧迫は性風俗の乱れをもたら
します。たとえば外国から赴任する方が奥様
を連れないうでいらっしゃる、そして農村から
女工として働きに出た女子が雇用者から性的
な対象として手をつけられています。女のほ
うは解雇がこわいので性的対象物になってい
ます。婦人問題運動家の人たちがこれにすこ
く反対し、必ず報告するようにと言っていま
すが、当人たちにすれば恥ずかしいし、職場も

守りたいので、性的搾取の対象になっても報
告はしません。マレーシアに大企業が進出す
るときは、必ず奥さんも同行してください。
プロノフスキー オーストラリアにも売春は
存在します。政府としては疫病を駆逐するよ
うに撲滅しようとしています。組織的な麻
薬犯罪と同じように簡単に撲滅はできない状
態です。売春はひどいことではないか、困っ
たものだ、とは、世界のどこでも言われなが
ら、現実にはどの国にも売春はあり、自分の奥
さんと娘はそうなってもらっては困ると思ひ
ながら、自分自身は買春するというのが行
なわれています（笑）。

オーストラリアでは買春によって所得を
得てはいけないという形で禁止しています
が、売春婦を買った男をつかまえるべきで
し、社会がそれを容認しているなら、それを
非難すべきだと思います（拍手）。

すべての社会の組織は法律で規制されま
す。その法律は男が書いたものですし、男は
たえず買春にお金を使っていますから、
買春の廃絶は非常に難しいと思います。女性
も、所得が多いからというので続ける人もい
ると思います。売春婦を罰する前に、女性の
待遇、賃金体系を変えることが必要です。

樋口 最後に三つだけ質問を受けます。

Q オーストラリアの方に 差別撤廃条約批
准の内容とアフターマティブアクション（男
女平等を実現するため、一定比率の女性の雇
用・登用を義務づける活動、以下A.A.と略す）
について。

プロノフスキー 私どもの行動計画は、今か
ら5年前、すなわち差別撤廃条約を批准する
前から修正され実施されています。A.A.は連
邦政府議会で行った法案を審議中です。A.A.は
公共機関で実施されますが、一般企業に実施
させるには法律化が必要です。

私人は、A.A.は過渡的には必要でも、自
分自身で自分の力を発揮するよう努力するの
が本筋だと思っています。でないと、自分が
昇格したのはA.A.があったからかもしれない
と、考え、自信を持てないのではないかと
思うからです。

なお、行動計画の一つとして『性差別語を
やめよう』という小冊子をつくりました。日
本にも『女のくせに』といった言葉があるよ
うですが、私どもにもあります。それを使っ
てはならないということに政府が肩入れして
います。国際婦人年を忘れようという動きに
こうして私たちは絶えず絶えずプレッシャー

をかけています。

Q マレーシアの方に ボランティア活動が盛んだとのことですが、学校や地域でのボランティア教育の方法と、福祉活動だけではない政治活動などの活動、ボランティア委員会について、くわしい説明を。

ジャマルディン マレーシアの平均寿命は女67、男65歳で、高齢化社会の問題はありませんが、育児は、女の組織が手がけており、ボランティアによる保育所はうまくいっています。保育所を州や市町村がつくる働きかけもボランティアがしています。企業内保育所もあり、就業の合間に授乳ができるので好評を博しています。

Q タイの方に 母性保護の法律と、「保護をはずしても平等を」という考え方について。
コシャーノン 現在の産休と、その延長で、一般の雇用労働者は満足していると思います。建設現場など日雇いや臨時雇用の人たちは保障がないので職場を去らなければなりません。また、たとえば自営のソパ屋の場合なら1か月休業ということになります。その間の収入のロスを顧客から補ってもらうことはできません。

失業保険もあります。それでソパ屋なら

妊娠する前に値上げをするなどで自衛します(笑)。妊娠中の残業・深夜業規制はありませんが、それに対し女性からの要求があるかどうかは私は知りません。

樋口 それでは、各国の女性の地位向上で一番大切なことを1分ずつお願いします。

コシャーノン 女性自身が自分の役割を認識することが何よりも重要だと思います。あまり重大でないことは要求する必要はないと思います。指を見ても指の長さは1本1本ちがいます。絶対的な平等を求めるのはむりで、相対的平等を求めるべきです。男女は同じものではありませんが、機会均等は必要ですし、平等に扱われなければなりません。

ジャマルディン 自分が何をやりたいか、何を望むか、自分をどう評価するかが、自分を解放するうえで非常に重要だと思います。

フロノフスキー オーストラリアでは、女性の地位を簡単に獲得してきたと思います。もちろんブレッシャーはかけましたが、血を流すようなこと、戦闘的な行為はせずに容易に獲得できました。しかしこれからは、私たちが得たものを、本当に我々のものにしていけることが必要です。男女がどのような形で家庭をつくり、それぞれが役割を担っていくか、

子どもや老人をどう扱うかなど、むしろこれからが正念場です。平等になったからすべて解決というわけではありません。自分たちの復権を望む人たちの巻き返しも予想され、いろいろ不愉快なこともあるでしょう。が、女性として何を求めるべきか、何を残していくべきかを考えて立ち向かわなければなりません。環境や平和問題にもいま女性性は目を向けています。女性は決して分裂してはならないと思います。男性たちは女性が分裂し、弱体化するのを待っています。

樋口 女性の地位向上を考えると、日本ではとかく欧米に目を向けていたと思いますが、遅ればせながらアジア太平洋地域の女性同士で、第1回の話し合いが持てたことを喜びたいと思います(拍手)。

同居者求む!

3DK、3万4千円の家賃を折半(1人1万7千円)で払える女性の同居人を探しています。

女の問題や、その他もろもろの興味ある話題を喋りながら毎日が過ごせたら楽しいな、と思っています。当方36歳、独身女です。御連絡お待ちしております。

神奈川県平塚市山下726-15-825
0463-3212021 福本のり子
東海道線平塚駅下車バス20分

聞きたかったホンネ

—東京都国際シンポジウムに出席して—

鳥居千代香

とも偉大におわします」(『コーラン』四章女三十八節)。

2月7日、大手町の経団連ホールで開催された東京都主催の婦人国際シンポジウム「アジア太平洋地域における婦人問題事情」に参加した。エレベーターを降りるや、りっぱなパンフレットがずっしりと入った紙袋を渡された。赤い絨毯を敷いたホールのなかは500席くらいあった。同時通訳つきである。資金的に豊かではない女たちの集まりに顔を出すことがあっても、こうしたものにはほとんど参加したことがなかったので、どのようなすばらしいものが始まるのかと気分も昂揚した。

席に腰をおろし、パンフレットをみる。オーストラリアの報告者は駐日大使館一等書記官、マレーシアは駐日大使夫人、タイはタマサート大学(国立)経済学部助教授であった。

全員女性であるが、この肩書を見て、報告者たちが立場上からも、自国にとりマイナスになるようなことはまず話さないだろう、各国の婦人がかかえている問題の核心は聞けないのではないか、という思いが頭をかすめた。しかしそれと同時に、これが思ひすぎしにな

ればすばらしいとも感じた。

まず司会の樋口恵子さんから日本の女性事情の報告があった。日本の女性の地位の低さ、社会にはびこるさまざまな矛盾にはいつもため息がでるばかりである。最後に昨年レコード大賞を受賞した細川たかしの「矢切の渡し」の歌詞を引用して話を締めくくった。

一、「つれて 逃げてよ……」二、「ついておいでよ……」三、「見すて ないでね……」
「捨ては しないよ……」三、「どこへ行くのよ……」「知らぬ 土地だよ……」

ほんとうにそうかもしれない。この主体性のない、いじましい自分の行き先も知らないで男についていく女は、やはり日本の女性を、そしてこの歌は日本の男女の関係を象徴していることは否定できない。樋口さんの独特な話し方は、実にうまい。

私はこの歌が、めったにいなくなったこのような女性を男性が願望する気持ちからヒットしたのではないかと考えてみた。しかし、そう言えないのが残念だ。

東京オリンピックの年に生まれた男女の大學生に、男女の関係について意見を聞いてみた。モダンな外見とは異なり、その考えの古さにこちらが驚かされた。

「アッラーはもともと男と(女と)の間に優劣をおつけになったのだし、また(生活に必要な)金は男が出すのだから、この点で男の方が女の上に立つべきもの。……反抗的になりそうな心配のある女はよく論し、(それでも駄目なら)寝床に追いやって(こらしめ、それも効がない場合は)打撃を加えるもよい。だが、それで言うことをきくようなら、それ以上のことをしようとしてはならぬ。アッラーはいと高く、い

「男は女より優れている」「女は男に絶対になかなない」「女の幸せは何といっても結婚し子どもを産むこと」「女の務めは主人の世話をし、子どもを産み、育てること」「家事が女の仕事」「権利権利と叫ぶ女はエゴイスト」「母親が仕事を持つと子どもがかわいそう」「子どもの非行の増加は母親が働くようになったから」……何の疑いもなく、『女大』と大して変わらない意見の若者が少なくない。この歌の流行も、男性の「かわいい女性の理想」と女性の「男性に好かれるかわいい女性になりたい」が一致したためだろうと納得した。

しかし、学生の中にも、一部の女子学生に、はつきり自分を持った、世の中の仕組みに気づいてきている者もいるのがうれしかった。

オーストラリアのプロノフスキーさんは、日本はオーストラリアの15年前、と指摘された。オーストラリアでは「婦人差別撤廃条約」の批准はもちろん、法律上のはとんどの平等を獲得しているそうである。うらやましい話だ。だが現実には差別は存在しており、法律を現実に対応させていくのが今後の課題であるとか。話の内容には全部共感できたが、もっと内部の実態、問題を話してはしなかった。

オーストラリアは人口が少ないことから、労働力不足を英国や西欧諸国からの移民でおぎなうことに力を入れている。しかし、非欧州人であるアジアの有色人種については、1901年制定の連邦移民法でディクテーション・テストを採用し、事実上有色人種の入国を拒絶した。このテストは1958年に廃止になったが、一部国民間ではアジア移民に対する根強い反感があり、有色人種に対する差別が強いと聞く。白色オーストラリア人の女性と有色オーストラリア人、有色移民の女性たちでは、現実にかんがりの差別があるのではないだろうか。

報告はみごとに日本語でされたが、彼女のような女性が「私の主人」というのが気にかかった。

D・R・ジャマルディンさんは、マレーシアについて、女性の大臣2人、副大臣4人がおり、1944年に婦人雇用局ができ「国連婦人の十年」が始まる前から雇用において平等な地位を得ていたと誇らしく話された。話を聞いていると、男女の問題がほとんど解決されたというような印象を与えるのである。

まず私にはイスラム教の聖典『コーラン』を読んでみても、イスラム教の国で男女の平

等が達成されることができるようかという疑問がある。それはともかく、たしかにマレーシアでは大卒の女性の就職率はよく、社会への進出はめざましいと聞く。しかし、大学に行くことができる女性は何パーセントいるのだろうか。実際は、百人のうち九十人までが女性を守る法律があることも知らないようだ。四人妻の悲劇だってあると聞く。

あまり知られてはいないことだが、私がここで特につけ加えておきたいことがある。マレーシアのイスラム教徒の間で広く行なわれている。『女子割礼』についてである。2歳から6歳ぐらいまでの少女のクリトリスの包皮をほとんど麻酔薬も使わず、カミソリの刃やはさみで切除するのである。

女性性は性欲が強すぎるから、これを弱めるため、女性の強情を直すためという理由で行なわれている。子どもが手に負えないときには、「割礼のやり方が十分でなかった」と考えられるそうだ。そのときの苦痛と体験が、それ以後、肉体と精神に悪影響を及ぼさないうるはずがない。それがねらいだと私は見ている。売春の問題について、ジャマルディンさんは、海外企業の進出で、農村出身の女性性が性的搾取を受けている、日本の男性を単身赴任

させないで、奥さんも同行してほしいといっ
て会場をわかせた。妻はどこにでもついてい
く夫の性欲処理機のようなのだ。

タイのコシヤノン博士は、アジア経済研
究所の客員研究員として来日中である。タイ
の女性の地位の歴史的变化から、今日のタイ
の女性の法的地位、経済的役割などの説明が
あった。

会場から売春問題について質問があり、売
春の発生する要因について述べられた。タイ
の売春の実態については、たしかに知らない
と答えられた。しかし、タイの売春も有名だ。
つい最近の日本の新聞にもこのような記事が
載っていた。

「タコ部屋で鎖につかがれ少女売春婦5人
焼死。……現場は被災した17軒の売春宿の
ひとつで、遺体はカギのかかった部屋の
中で、手と足を鎖で柱などに縛られていた。
目撃者や重傷を負った売春婦たちの証言か
ら、犠牲者はいずれも北部や東北部の貧困
地帯から売春婦として売られてきた15、16
歳の少女と判明した」(『毎日新聞』2月5
日)。

「タイ在住日本人逮捕。マカオなどへ売春
少女あつせん」(『読売新聞』2月7日)。

低開発といわれる国では、富める者とそう
でない者には雲泥の差がある。上層階級に生
まれ、高等教育を受ける機会を得た女性は、
そうでない男女が大多数であるために比較的
に高い地位に就くことができる。法律からも
守られる。社会、家庭にあつては、男性同様、
下層の男性や女性を差別、搾取する構造を取
っている。エリートの女性は、必ずしも貧し
い女性たちの問題に関心を持っているとは限
らない。一番苦しむのは下層の女性で、上層
では発展国の女性たちはある意味で暮らしや
すいといえよう。

差別が強いのは日本だけではないはずで、
各国とも、もっと問題のところをつつこんで
話してはしかなかった。差別を告発してはし
かつた。形式的なシンポジウムで、かゆいところ
に手が届かず、どうも今でも気持ちが悪
い。費用もずいぶんかけているのである
う。もちろん税金からでている。
しかし、私たちはプロノフスキーさんが言
われたことには気をつけなければならぬ。
「女性が分裂し、弱体化するのを、男性たち
は待っている！」
男性たちの思うつぼに入らないように、国
を問わず女性たちが手を取り合っていこう。

“新入生歓迎” 仙川学院

I. 学習部

1. 教育目標：個人の個性を尊重し能率良
く確実にものにする。目的校合格完璧
2. 学科及び対象：英数算国社理、小中高
成人
3. コース：個人・グループ・実力養成進
学・特訓・家庭教師

II. 英会話部

1. ママと子供の英会話。
2. 海外旅行必携会話。
3. ビジネス会話。スマートなビジネス。
国際感覚を身につけよう。

III. 英文タイプ部

小学生から大人まで楽しみながら英語
に強くなれる。就職はバッチリ!

IV. カウンセラー部

教育、進学相談、福祉一般、女性問題

V. アコ・トーキング・サロン 成人男女

女性学・人生・自分史を綴る・文学・
社会・婦人・老人問題を話す

調布市仙川町3-12-32 ☎03-308-7871

貸 室

- ・ A室 6帖 B室 8帖
- ・ 冷暖房完備
- ・ 椅子、机15個、白板
- ・ 1時間 ¥1,100
- ・ 会合、文化教室に最適
- ・ 場所 代々木上原駅2分
(小田急線・千代田線)
- ・ 渋谷区元代々木12-5 梅原ビル105
☎466-0365 慶秀舎
- ・ 連絡先 午後4時まで 044-954-1405

いくらおとなしいへあごらでもあの試案はのめない!

雇用平等法案公益側たたき台に怒りの声

雇用平等法案をめぐる両論対立したままの婦人少年問題審議会。ついに2月20日、公益側委員がたたき台を発表しましたが、保障なし、平等なしの試案に、全国から憤りと憂慮の声があがっています。

回答書を熟読しますと、公益側委員がそれなりに苦心された跡もうかがわれますが、現実の差別発生の一番大きな原因となっている採用差別が努力義務に終わっていること、採用後の差別についても、「採用時点で同一職種、同一資格に属する労働者については」と条件つきになっていることは、平等を骨ぬきにするものであり、このままの法案が出来るのでは「不平等法」になるという声は、決して言いすぎではありません。

また、母性保障について、「家事育児等の責任を負っている現状が女子労働者の就業のあり方に大きな影響を与えていることは否定できないが、それをあまりに強調し、それを

踏まえた措置を講ずることは、この現状を固定化し、正当化し、機会均等と待遇平等の実現の妨げとなるおそれがある」というのは、論理としてはわからないではありませんが、これは、平等が完全に実現して後にはじめて問題となることであり、現在のような劣悪な労働条件のもとで一挙に保障を取り払うことは、日本の女子労働者の死活に関わるものと言えましょう。

男女雇用平等法は、女性差別撤廃条約批准のための国内法整備の一環として審議されようとしているわけですが、女性差別撤廃条約には、「結婚もしくは出産による女性差別をとしてはならず、差別をした場合は処罰する(第十一条)」ことを明記こそすれ、現行の母性保障や女子保護を取り払えなどということは一行も記されていません。経営者側は、「雇用平等法が成立すると日本経済は破綻する」と色めきたっていますが、この言葉はど

高度成長が女子労働の搾取のうえに成り立っていたことを示すものではないと思います。

私もへあごらVでは「保護か平等か」という問題の立て方そのものに疑問を提示し、「平等も保障も」を、一貫して提唱してきました。母性保障がないばかりに、そして採用差別をはじめとする差別があり、平等がないばかりに、女は常に劣悪な職業にしか就けません。保障は平等を補完するものであって、平等と対立するものではありません。また、平等は、一部のエリート女性の特権を守ることではなく、一番劣悪な立場の人を守る、人権の保障にはかならないことを、改めて強調したいと思います。

平等法要求の発端には、たしかに、一部職種からの空文化している現行労基法の規制を緩和してほしいという要求もありました。このことが、「平等法はエリート女の要求」という「うわさ」を生んだのは残念なことです。公益側試案をめぐって、この声がふたたび起こり始めていることを、私たちは深く憂慮します。30すぎた女、子連れ女に職がないのも、女の平均賃金が男の52・8%でしかないのも、法的規制がないからであり、平等法は、「女の

いのちを守る法」なのです。

それだけに、この平等法は「まやかしの平等法」であってなりません。国連の女性差別撤廃条約の審議の際も、最ももめたのは、「制裁」を伴う法とどうかでしたが、国連は、これを「処罰」を伴う法として成立させたのです。私たちが、強行法規でなければならぬとしている根拠はここにあります。

今回のたたき台は、残念ながら、この肝心かなめの釘がぬけたものでした。経営側は認めないだろう、という公益側の「読み」があったのかもしれないが、経営側が不当に押しつけてきたことを、それこそ公益側の立場で追求してはしなかったと思います。

平等法をめぐって、私たちはいま大きな試練の場に立っていますが、「女の生命を守るために」私たちは決して分裂してはならないと思います。私たちが真の平等と保障を勝ちとるとき、それは、人種・出生・障害・学歴のゆえに不当に行なわれている日本の社会の中の差別を取り払う大きな一歩となるはずです。

婦人少年問題審議会婦人労働部会公益委員から出された審議のためのたたき台

昭和59年2月20日 労働省発表

婦人少年問題審議会婦人労働部会は、昨年末にそれまでの審議状況を公表した後本年2月6日に開催し、労使各側の意見の分かれている点を中心に審議を行ったが、雇用における男女の機会均等及び待遇の平等を確保するための関係法案を婦人差別撤廃条約批准のための条件整備の一環として今国会に提出するという前提に立って審議の結果をとりまとめるには、公益委員がこれまでの議論を土台として一応の試案を作成し、それをもとに審議を深めることとするのが適当であるとの合意がなされた。この合意に基づき、公益委員は、本日までの間、数回にわたって意見の交換を行い、別紙のとおり、とりあえずのたたき台を提示することとしたところである。

これは、ある程度現状を考慮しつつも、「雇用における男女の機会均等及び待遇の平等を確保するための法的整備の検討に当たっては、現状固定的な見地ではなく、長期的展望の上に立つて行うことが必要である」との考え方に、より重点をおいてとりまとめた。

我が国のこの問題をとりまく諸条件は未成熟であり、婦人差別撤廃条約が目指している男女平等の姿を受け容れる基盤は整備されているとはいえない。しかしながら、男女の機

会均等及び待遇の平等の実現を、特に雇用という経済性、効率性が追求される分野において図ろうとする場合には、現状を重視しすぎると何らの前進も生まれないおそれもあり、むしろ積極的に現状を変えていく方策を検討することが必要場合がある。また、女子労働者の現状、特に女子が家事育児等のいわゆる家庭責任を負っている現状が女子労働者の就業のあり方に大きな影響を与えていることは否定できないが、それをあまりに強調し、それを踏まえた措置を講ずることは、この現状を固定化し、正当化する結果になるだけでなく、女子にとって機会均等及び待遇の平等の実現の妨げとなるおそれもある。労使各側委員のこれまでの意見は十分承知しているところであるが、このたたき台は、以上のような点を総合的に考慮してとりまとめたものである。今後、労使各側委員の議論を十分踏まえて、部会としての合意の形成に努めたい。

公益委員 青柳 武、渡邊道子、和田勝美
1、機会均等及び待遇の平等を確保する範囲及びそれに対する措置について

(1) 機会均等及び待遇の平等を確保するための法律において、募集、採用から定年・退職・解雇に至る雇用管理のどの事項をその対象範

困とするかについては、使用者委員から、昇進・昇格は評価にかかる問題であり、法律の規制になじまないとの意見が出されたが、婦人差別撤廃条約の趣旨に鑑みると、それをも含め、雇用管理の全ステージを対象とすべきであると考える。

(2)機会均等及び待遇の平等を確保するため、雇用管理におけるあらゆる男女差別を禁止すべきであるとの意見も強いが、女子労働者の就業実態・職業意識、我が国の雇用慣行等を勘案すると、当面、各事項毎に次のような措置をとることが適当であると考える。

イ、募集において、女子が合理的理由なしに排除されることなく機会を均等に得ることは、雇用における男女の機会均等及び待遇の平等を確保する上で極めて重要であり、募集に係る男女の差別的取扱いを撤廃するため今後厳しく対応する必要がある。募集は採用と密接な関連を有するその前段階の行為であること及び採用については後述の理由により企業に強制することが困難であることにより、仮に募集だけを直ちに強制すれば、現状では、採用の意思とは異なった形式だけの募集や縁故募集が増加すること等により労働市場に著しい混乱を引き起

こすおそれもあるので、当面は、事業主が募集について機会の均等を確保するように努めることとし、(3)のイの指針に基づき実効ある行政指導を行う等、女子について男子と均等な機会の確保を促進するための措置をとること。

ロ、採用については女子労働者の就業実態・職業意識、我が国の雇用慣行、女子の就業に関する社会的意識等を考慮すると、直ちに機会均等の確保を企業に強制することは適当とはいえないので、当面、事業主は男女の機会均等の確保の促進に努めることとする。

ハ、配置、昇進・昇格、教育訓練、福利厚生及び定年・退職・解雇は、採用の時点で同一職種、同一資格に属する労働者として採用された者についての待遇の平等の問題であり、特に教育訓練については、勤続年数の男女差の影響は大きいものの女子労働者に労働能力の開発・向上の機会を確保する意義が極めて大きいこと、福利厚生については勤続年数の男女差の影響が軽微であること、定年・退職・解雇については判例の集積もあること等を考慮に入れると、事業主はこれらに係る合理的理由のない男女の差別的取扱いをしてはならないこととする。

(3)法律の実効を確保するためには、次のような措置を講ずることが必要であると考ええる。イ、労働大臣は、必要に応じ、雇用における男女の機会均等及び待遇の平等を促進するために、事業主に対する指針を作成する。

ロ、(2)に関し労使間で問題が生じた場合には企業内における労使の自主的解決を促す。

ハ、ロにより問題が解決しない場合の迅速、簡便な紛争解決のため、各都道府県毎に労使の代表を参加させた調停機関を新設し、有効な救済措置がとられるようにするか、法の施行を円滑に行うため、婦人少年室の体制を整備すること。

2. 労働基準法の女子保護規定について

女子に対する特別の保護措置は、女子の能力発揮や職業選択の幅を狭める結果をもたらす場合があり、母性保護規定は別として、機会均等及び待遇の平等と相容れないものであり、婦人差別撤廃条約の趣旨に照らせば、本来廃止すべきものである。しかしながら、労働時間をはじめとした労働条件等労働環境、女子が家事育児等のいわゆる家庭責任を負っている状況、女子の就業と家庭生活との両立を可能にするための条件整備の現状等を考慮すると、それらを直ちに廃止することは困難

であり、従つて当面は次のような措置をとることが適當であると考える。

(1) 時間外労働、休日労働

①最近の女子労働者の就業分野の拡大に伴い、特にその進出が顯著である第三次産業において現行規制が女子労働者の能力發揮の障害となつてゐること、②ILO条約や諸外国の立法例、③労働保護立法の歴史的経緯等を勘案すると、当面、肉体的負荷の大きい労働が多くを占める工業的業種・職種に従事する者（管理職及び専門職を除くこととし、それらの範囲については別途具体的に検討する）については現行規制を若干緩和して存続し、その他の者については現行規制を廃止することが適當であると考ええる。

(2) 深夜業

前記(1)と同様の観点から、当面、肉体的負荷の大きい労働が多くを占める工業的業種・職種に従事する者（管理職、専門職及び短時間労働者その他スチュアーデス等女子の健康及び福祉に支障がないと認められる業務に従事する者を除くこととし、それらの範囲については別途具体的に検討する）については現行規制を存続し、その他の者については現行規制を廃止することが適當であると考ええる。

(3) 危険有害業務の就業制限

専門家による母性保護の見地からの検討を早急に行ひ、その検討結果を踏まえて個々具体的に見直すことが適當であると考ええる。

(4) 坑内労働

看護婦、新聞記者等一時的に入坑する者等我が国が既に批准しているILO第45号条約において入坑の認められてゐる者については禁止を解除することが適當であると考ええる。

(5) 産前産後休業等妊産婦の保護

女子固有の妊娠出産機能に係る母性の保護は、次代を担う国民の健全な育成という観点からも重要であるので、現行の母性保護に係る規定をさらに充実させる必要があるという観点から、産前休業を多胎妊娠の場合10週間に、産後休業を8週間（うち強制6週間）に拡充するとともに、妊産婦の時間外・休日労働及び深夜業を原則的に禁止することが適當であると考ええる。

(6) 生理休暇

生理休暇は、医学的にも、また婦人差別撤廃条約上も母性保護措置とはいえず、また、男女平等問題専門家会議の報告において示された女子の負つてゐる家事育児等のいわゆる家庭責任を考慮した暫定的措置とも考えられ

ず、廃止すべきであるが、生理日の就業が著しく困難な女子がいることは医学的にも明らかであり、それらの者については何らかの形で配慮が必要であると考ええる。

(7) 帰郷旅費

廃止することの問題はないと考ええる。

3、育児休業普及対策等について

(1) 育児休業請求権の法制化

育児休業請求権の法制化の問題は、男女の機会均等及び待遇の平等を確保するための法的整備の検討とあわせて検討を進めてきたが本問題は婦人差別撤廃条約の批准のための条件整備として必要不可欠な事項とはいえないこと、我が国における普及率も1割強にすぎないこと等を考慮すると、現段階において企業に本制度の実施を強制することはあまりにも困難といわざるをえず、当面、行政側の積極的な指導、援助等により本制度のなお一層の普及を図ることが先決であると考ええる。

(2) 再就職援助

女子労働者のライフサイクルの変化に伴ひ、結婚・出産・育児等のため一たん家庭に入つた女子も、子育てが一段落すると再び労働市場に登場する場合が増えており、再就職する女子労働者の増加は顯著であるが、現状にお

いては、必ずしもそれらの者がその能力を向上させ、それを有効に發揮する機会を適確に得ているとはいえない。これらの実情に鑑み、国は、これらの女子に対し労働能力の開発向上の機会を拡充するほか、事業主がこれらの

女子を再雇用する制度を導入することを奨励する等により、これらの女子がその希望に応じて雇用機会を得、能力を有効に發揮することを促進するよう努めることが必要であると考えらる。

“未婚の母” “高収入の前夫を持つ女”は支給対象外 女・子どもは死ね！ の児童扶養手当打ち切り

またも弱者痛撃！ 厚生省は12月26日に出示された児童福祉問題審議会の答申を受け児童扶養手当法改悪案、児童扶養手当の厳しい支給制限を今国会に上程しようとしています。

児童扶養手当は、現在、母親の所得が年収361万円未満で子どもが18歳未満ならば、第1子に月額32,700円、第2子に5,000円、第3子からは2,000円が何年でも支給されますが、これを、非課税世帯(母子2人で年収151万程度)なら月額33,000円にアップ(わずか3000円!)する一方、151万~300万円は、22,000円に減額、300万円以上は支給しないという大隔切り下げを打ち出す一方、未婚の母は対象外とする、新規申請に際しては別れた夫の所得証明を提出させ、年収600万円以上な

ら支給しない、支給期間を7年に限る(ただし義務教育期間中は支給)という、世にも乱

暴な改悪案を打ち出しました。「未婚の母」というのは現実には妾が多い」「自分の主義による片親世帯への国庫補助はおかしい」などがその論拠ですが、現実には夫のもとから逃げ出している母がほとんど。厚生省の全国母子世帯調査(79年10月)でも、前夫や実家から仕送りを受けている者は5・1%しかない、という現状を全く無視した、血も涙もない暴論というはかりません。フランスのように、国が前夫から扶養費を取り立て、それができないときは税務署が税金と一緒に徴収する国ならともかく、これは母子世帯は死ねというに等しいうえ、人生の選択を規制する、憲法違反の措置ではないでしょうか。平等法

もなく、保育所などの設備は不足し、子連れの母は働こうにも働けない日本の中でのこの方針に、心からの怒りを禁じ得ません。

児童扶養手当の切り捨てを辞さない連絡会(連絡先石原きみ子・042517611927)行動の会・児童扶養手当法改「正」に反対する会(呼びかけ人「一番ヶ瀬康子・伊東すみ子・金住典子・斎藤千代ほか」)も、さっそく活動を開始、女の総力をあけて阻止するかまえてです。

日経連、平等法で公開質問状

日経連は3月2日、首相に①差別撤廃条約の批准に際し経営側に連絡がなかった。②批准の最低要件を満たす条件、の2点で質問状。婦少審は3月1日に労使とも腹のさぐりに終始。結論は19日とみられ、全国各地で19日を焦点に抗議集会が展開されます。

女の失業率、史上最悪に

1月の労働力調査結果によると、完全失業者数は男95万、女66万人、完全失業率は男2・8%、女3・0%、男女あわせて史上3番目の高率になりましたが、とくに女性の前月比3万人増で史上最悪。パート労働さえも、雇用情勢は非常にきびくなりました。

“保護も平等もない”公益側試案に反対

400人が抗議の声――2・25集会



「企業の平等法くずしを許すな! 2・25集会」は、20日に発表された公益側試案を受けて、怒れる女たちが続々とつめかけた。入場者名簿に記入しながらチラチラ見ると、福島・愛知、金沢など、遠隔地からの来場者もかなりの数。試案に対する憤りがうかがわれる。

12・24、イブ・リブ・リレーのビデオに続いて壇上に立った中島通子さんは、連日のスピーチで、すっかりノドをいためたと、声もかすれがすれ。それだけに、日頃にもまして迫力があった。「保護か平等か、という問題の立て方自体が、すでに企業の謀略にはまったもの」「女子保護は全廃、企業の募集、採用は努力義務という試案は、平等どころか差別を促進するもの。努力義務だけの勤労婦人福祉法がどんなに無力か、身にしみて知っている」「採用後の差別に対しては、労働基準法もある。募集・採用という雇用の入り口に差別があるところに大きな問題があるのに、

この入り口の差別撤廃が強行法規にならないのでは無意味」と、公益側試案を手きびしく批判。「どうしても深夜業が必要な職種は、慎重に論議したうえで労基法の適用除外規定で考えるべき。原則として深夜業は男性も保護する方向で考えよう」と訴えると、大きな拍手。

続いて、各地で働く人、入口で締め出されている女子学生など、各方面からのアピール。残念ながら会場マイクが悪く、土井たか子さんを除いては、後ろのほうではほとんど聞きとれず、10・22集会の場内発言ほどの盛り上がりはなかったが、参加者は400人を超え、カンパも6万円以上。熱気ムンムンのうちに、「女性差別撤廃条約の精神を無視した試案に怒りを禁じ得ない。募集・採用の差別を禁止せず、努力目標にとどめる平等法は問題外。労基法的女子保護規定が撤廃され、試案の方向で平等法がつくられれば、多くの女は働き続けられなくなる」と、試案の撤回を求める抗議文を採択した。これからの運動の盛り上がりにはハズミをつける、いい集会だった。

(佐々木由美)

法制定20年後に実質平等となったアメリカ

京都・雇用平等法集会から

1月22日、桑友会館で、「雇用平等法について考える京都の女たち」の集会があった。講師は三井マリ子さん、正路恰子さん。

三井さんの話は昨年の留学生生活で知ったアメリカの男女平等委員会の活動が中心。平等先進国と言われるアメリカだが、60年代の雇用機会平等法の制定だけでは効果が少なく、72年の改正で雇用平等委員会（EEOC）の権限が強まった意味は大きい。以前は調査・和解しかできなかったのが裁判に持ち込めるようになり、歯をもった番犬として企業にかみつけるようになった。また大統領の行政命令として、少数被差別者（女性・黒人・障害者）に差別解消積極措置がとられている。これは、政府と契約する企業に対し、採用・賃金・昇進・退職などのあらゆる差別的解消を義務づけ、企業側の意識変革を迫るもの。たとえば政府と契約する企業には、日本同様建設・土木業が多いが、向こう10年の間に女性を4割雇うことなどを義務づけており、男女の雇用の平等がようやく法的強制力を持つ社会命令になりつつある、と報告。

正路さんからは、婦審審は密室審議で自分たちに伝わってこないが、職場の実態に基づいて、声をあげていかなければ、と、実例報告。たとえばテレビ朝日では17年間、TBSでは20年間女子を正社員に雇っていない。番組契約、タレント契約など短期雇用、縁故採用が多く、組合活動がしにくい。また商社などでは人材派遣会社の利用がふえ、雇用関係が見えにくくなっている。こういう中で、平等を望むなら男なみに働けというキャンペーンが盛んだが、母性保障がなければ女の体はこわれ、働き続けられなくなると強調。

その後フリートリーキングに移ったが、働く女性に3つのタイプがあるという三井さんの話が印象に残った。Aは、男の職場に進出し、同一労働同一賃金を目指す。Bは、女は独自の分野で働くが、男女の仕事は同価値であることを認めさせる。Cは、既成の価値観を疑い、全く新しい社会を創ろうとするもの。このどれが有効かを論ずるよりも、それぞれのやり方で厚い壁を破ろう、と結ばれた。

法が出来て20年近くたって、ようやく雇用

の平等が浸透しつつあるアメリカと、これから法をつくらうとする日本と……。私たちが本当の平等法を手に入れるにはまだまだ時間がかかるのでしょうか。それにしても、経営者側の先手攻撃、合理化や女性差別強化の巧妙さは驚くばかり。私は、自分の居場所（雇用されるアテのない専業主婦）にこの問題をどうひきつけ、声をあげていけるのか、考えこまずにはられない。

（木野村啓子）

全国組織48団体の総力をあげて

女性差別撤廃条約の

批准促進を

2・18総決起集会

雇用平等法など、経営者側からの攻撃も一段と激しい折、//実効ある強行法規としての平等法//を目指して、48団体は女性差別撤廃条約批准促進集会を婦連会館で開いた。

「八国国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会Vの名のとおりに、差別撤廃条約の早期批准に向けてゆるやかな連帯で活動してきた。条件整備のうち国籍法はやや展望が開けたが、平等法や教育は前途多難」という大羽綾子さんのあいさつに続き、高島順子（同

盟)、和田典子(家庭科共修)、吉岡淳子(主婦同盟)の各氏が、雇用・教育・健康福祉の各分野の現状を点検、85年までに取り組まなければならぬ問題点を指摘。それに続く会場発言では、教育や労働の現場から、きびしい現状報告があい次ぎ、差別撤廃条約の必要性が浮き彫りにされた。

主婦連、地婦連など、やや保守的な婦人団体も含む48団体は、「政府公認団体」の観もあり、政府側も、大きな婦人政策については48団体の意見を尊重しているため、悪くすると政府の隠れみに利用されるおそれもあるが、ともかくも、右から左まで、婦人問題については最低線で一致して団結を誇っているのは、大きな力だと感じた。(福井典子)

男女の労働のあり方こそ

買売春の「元凶」

「アジアの女たちの会」

84春期女大 2月15日

▲労働、そして買売春——資本制の搾取構造としてとらえる▼と題する柴山恵美子さんの講演を聞きに行った。

いまおこなわれている買売春が、根っこ

所で、男女の労働のあり方と深くつながっている、との指摘に、目の中のゴミがとれる思いがした。以下、私の理解できる範囲で、講演の内容を、まとめてみた。

まず、売春を生み出す構造として、女の半人前化した労働実体があり、買春を生み出す構造として、男の長時間にわたるストレスだらけの労働がある。

女は墓場まで続く徹底的な雇用差別をうけており、男との賃金格差も、ここ、2、3年で逆にひらいてきている(現在は52%)。

また「母性機能は私的なもの」とする経営者の思惑がはばをきかせているので、労基法できまっている出産休暇や、育児時間さえ、満足にとれないため、お産でやめていかざるをえない女性があとをたない。

さらに、80年代に入ってME(マイクロ・エレクトロニクス)革命が進行し、女子社員不安定雇用化がめだっている。不安定雇用とは、パート、派遣社員、在宅勤務といった雇用形態で、最近はやりの各種ベンチャービジネス(研究開発型企業)なども、その一例であらう。

これらの仕事は、多くが横文字で書かれていて、時給もよく、一見、キャリアウーマン

のイメージにびつたりの翔んでる職業のように思われがちであるが、実体は何の保障もないし、渡り鳥のような不安定な仕事である。

一方、男の働き方というのは、これまた主婦という存在を前提にしなければならぬといほどの壮絶である。つまり、「先進国」の中では群を抜く長時間労働、単身赴任や出張ぎという名の「戦士」化など。家事・育児の一切を妻におしつけなければ、とうていやってゆけないような働き方である。

このような働き方をしている女や男が「結婚」という欺瞞にみちた仕組みにとりこまれたとき、自らの性をその中で謳歌しようとすることは、まっ昼間に星を見つげようとすることにひとしい。トルコやキャバレーに足しげく通う男たちのほとんどが既婚者であることを考えれば、いかに男たちが「結婚」の中で、そのエロスを枯渇させているかが、わかるだろう。買売春があつて、労働の疎外があるのではなく、労働の疎外があつて、買売春が生まれるのである。

女の労働権を確立することを通じて、男女の労働のあり方を変えることが、いま何より急がねばならないことではないだろうか。

(八あごら湘南V福本のり子)

“再”ではなく

持続した教育が必要

全国婦人教育交流集会

2月16、17、18日と、埼玉県国立婦人教育会館の、全国婦人教育交流集会に参加した。テーマは、「私にとつての再教育——自己発見のための機会と方法」。

第1日目は、放送キヤスターとして活躍中の木元教子氏の公開講演。2日目は、80名ほどが5部会に分かれて、それぞれ助言者をまじえて、話し合った。夜は、自由交流で、もっと話を煮つめた。3日目が、全体会。

参加者は、60代と20代、北海道から沖縄、教師・団体職員・公務員・主婦・ボランティアと多岐にわたり、いろいろな重要な問題がどんどん出ておもしろかった。しかし、見回すとやはり40代50代の女性が一番多く、ここでも子育て中の女が出て来ることの大変さが表われていた。

私は、1歳半の子どもを1日目は夫（年休をとった）、あとの2日は夫の両親に預けての参加。それで一層、女の再教育ということを考えてしまった。再ではなくて続くものに

しなければ、と思う。これからは。

「あなたはいいわね。こんなに若いうちからスタートできて。私たちは、子どもが大きくなって、それからやっと重い腰をあげたわ」と、みんなに言われた。よりよく生きるための勉強（生涯教育）は、子育てまっ最中でも、もっと若い時でも、いつでも必要だと思ふ。いつでも女が外へ出られる準備を家庭の中でも整えておく必要があると感じた。

2日目の夜の自由交流会では、女性史の勉強をしている仲間と、時間を忘れて話し合った。全員で4人と少数ながら、同じ「あこら」の読者の新潟の倉元さんとも会えて、中身の濃いものとなった。確認し合ったことは、女性史を学んでそれをどうするか？ ということ。勉強を単なる目的にしないで、それを手段（武器）に、よりよい生き方をする、その成果を社会に還元すること、で一致した。3日間、熱心に討論し合った仲間と別れるのが、本当になごりおしく、いつまでも立ち去りたい雪の国立婦人教育会館でした。（平井）

◆下田、土肥の仲間たちと、女性史（女の生き方）を勉強しよう準備中です。
県内の読者の方、ご連絡下さい。
静岡県田方郡土肥町土肥3492-130
〒410-1333 055891812372 平井和子

あこらのあこら

2月5日に5人（59、38、36、33、26歳の女性）の集まりで、あこら山口Vの準備会を開きました。

とにかくにも、「他人に話せる内容の、自分のかかえている問題」を話し合う場をつくらうと決めました。働いていない人もいますし、メンバーは全く違った状況にいる者ばかりです。性格も、ハシヤギ屋、ダマリ屋、ツッパリ屋、オコリ屋と、さまざまです。

「〇〇運動」に縁の深かった者は3人ですが、それもおのおの違ったところで運動していた者たちです。「来る人は拒まず去る人は追わず」でやろうね、と話し合っています。この5人は死ぬまで「去る」ことはないみたいです。「参加してみようかな」と言っている人も、今まで運動をしたことのなかった人が多く、楽しみでたまりません。

というわけで、3月4日は第2回目の集まりです。いつが正式な発足になるのかわかりませんが、自然流でしばらく第1日曜日の例会を続けてみたいと思います。『子どもがあぶない』の合評会を、4月1日、午前11時から私の家で開きます。（下関市 森川万智子）

●札幌から

●年間計画

それぞれが何をやりたいか。根本的には女の問題であること、『あごら』の読書会はあくまでメインであること、の確認の上で、それぞれが希望を述べあいました。

まだ十分煮つまってはいませんが、今年前半のだいたい予定は次のとおりです。

2～3月 雇用平等法・労基法、4月『子どもがあぶない』読書会、5月 ウーマンリブとマンリブと、6月『子どもがあぶない』読書会、7月 主婦論、8月 合宿

●本係から

近くの図書館で『あごら』の購入希望カードを出そう。(○号と書かずに、「子どもが危ない」というふうに、題名を書いて出すとよい。)

●集会参加報告

「怒りを力に—許さない法改悪—」(83女たちの反安保講座第5回)

現在、札幌で運動しているさまざまな市民グループ(女性が中心)が集まり、アピールや報告がありました。

△98人の会△からは反核映画上映とその趣旨

を、△北大女子寮自治会△からは、女子寮のみ防犯対策上、門限を設けて、ガードマンを常駐させるという案への反対運動について、△83精神衛生実態調査を実施させない北海道連絡会△からは、その問題点と経過を。△共に育つ会△からは、市の差別アンケートについて。続いて、教員免許法改定問題にとり組んでいる人や、保安処分に生活の場から反対する市民の会—△あさみの会△からの報告がありました。

新聞などでも多少報道されていましたが、実際に話を聞いてみて、その問題点や経過などがよくわかりました。

出てきているものは違っても、根っこは同じ。いろいろな所で管理が強まってきて、右傾化の波が押しよせてきていることを強く感じました。一つの運動に力を入れてると、なかなか他の方まで手がまわりませんが、たまにはこういうふうに皆が集まり、活動の交流をしていくのは大事なことだと思いました。

(細田英理子)

●京都から

正月気分がすっかり抜けたところで、大きくクロージアップされているのが雇用平等

法。今年は、この法案をめぐって、女と男の平等について、人間らしい働き方について、さまざまな論議を呼びそう。とはいえ、自分の周囲を見回してみると、「そんなん知らん」という人たちが圧倒的。日々の暮らしのハンザツさにとりまぎれていると、頭の中は錆つき動きの足は鈍りで、問題がとらえにくくなってくる。ドン感・ドン足なればこそ、じっくり時間をかけて考え、くり返し語り合うことが必要なのでしょう。

大いに語り合っていきましょう、今年も。

◆あごら京都恒例の新年会は、中華料理の卓を囲んでの集まりになりました。「食べるだけではもったいない」と、レポートの予定もしていたのは欲張り過ぎというもの。次々と運ばれるおいしい料理を前に、数か月ぶりに出会う人の顔を見れば、もう「レポートはいっただってできるサ」という気分。互いの近況を報告し合ってワイワイと。年間の活動計画など話し合ったところで時間オーバー。レポートは次回にと相成りました。

近況報告では、個々の状況は違っても、女の働く現場のきびしさが語られました。体の不調の訴えが多かったのが気になりました。

(木野村啓子)

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	ー	マ	会	場
10日(土)	13:30	「諸外国における男&女考」2回目(ソビエト・ライフ/高橋その			神奈川県婦人総合センター(江の島)	
11日(日)	13:00	労基法改善を許すな! 真の雇用平等法を! (婦人民主クラブ)			婦人ホール	
11日(日)	14:00	母性保障ぬき雇用平等法を許さない福岡の会マラソン演説集会			福岡市天神岩田屋前	
11日(日)	14:00	「介護女性のつどい」家庭で老人・障害者を介護している女性対象			阿部ひろ江宅	07555313099
13日(火)	13:30	あこら九州・例会			神奈川県婦人総合センター	
13日(火)	15:21	あこら札幌・例会			福岡市立婦人会館	
17日(土)	13:30	「諸外国における男&女考」3回目(石油の国に住んでみて/武内道子			喫茶のあ	0115111377
17日(土)	15:21	雇用平等法決起集会(主催・東京地評)			神奈川県婦人総合センター	
18日(日)	17:15	竹村泰子さん(衆院市民運動議員と語ろう)(茶集代5000円)			日比谷野外音楽堂	
20日(火)	13:14	あこら大阪・例会			豊島区民センター3階和室	
21日(水)	13:14	あこら湘南・例会「女のルネッサンス」オバンダーズ	03370060007		千駄ヶ谷区民会館	
22日(木)	10:26	雇用平等法問題研修講座			茅ヶ崎市民センター	
23日(金)	10:12	あこら北海道・例会			神奈川県婦人総合センター	
24日(土)	10:12	あこら佐世保・例会			名吉屋婦人会館	
25日(日)	10:12	「諸外国における男&女考」4回目(異文化の間で/コーヘン・白木川			市立図書館総会議室	
26日(月)	10:12	偏差値教育と女性 田中嘉美子・仲野暢子(婦人問題懇話会)			神奈川県婦人総合センター	
27日(火)	10:12	あこら九州・例会			千代田区立産業会館(竹橋)	
27日(火)	10:12	あこら武蔵野・例会			福岡市立婦人会館	
28日(水)	10:12	日本女性学研究会・例会 「恒例 春の大バザール」			かわら版事務所	04239422902
29日(木)	10:12	ESCAP 政府間会議			枚方市民センター	
30日(金)	10:12	ESCAP 民間女性のつどい ①買売春を考える			インダコービ	
31日(土)	10:12	②私の中の「アジア」			経団連	
31日(土)	10:12	③映画とスライドに見るアジア			真生会館(国電信濃町駅下車)	
31日(土)	10:12	④自立と教育			真生会館	032937121
31日(土)	10:12	⑤雇用平等法・OAとしてアジア			真生会館	0337000238
31日(土)	10:12	⑥全体会			東京YWC A	032935421
4月1日(日)	10:12	「管理教育を脱する」We84春の公開ゼミナール	033261380		世田谷婦人会館	
7日(土)	14:14	第四回「女は競争への道を許さない世田谷集会」映画と講演 樋口恵子			森川宅	0832463181
7日(土)	14:14	あこら山口・準備会「子どもがあふない」合評会			渋谷勤労福祉会館「健康・家の会」	
7日(土)	14:14	全金日産家族手当裁判・健康保険厚生省通知4・7集会	4634231		神奈川県婦人総合センター	
7日(土)	14:14	あこら湘南・例会			阿部宅	
7日(土)	14:14	あこら京都・例会				
10日(火)	16:16	第36回婦人週間 テーマ あらゆる分野への男女の共同参加				

次号増刊は『なぜいま平等法なの(仮題)』

初夏発行予定の増刊は『心とからだ』を予定していましたが、雇用平等法・児童扶養手当・年金等をめぐり緊急事態が続発、平等法に焦点を絞りながら、これら一連の動きを考えてみることにしました。雇用平等法については、すでに20号、22号、23号で詳説していますが、「平等」とか「保護」ということばがイデオロギッシュに語られている今、私たちが本当に見落としているものはないのか、もうひとつ深いレベルで省察してみたいと思います。

寄稿・取材・インタビュー あなたの原稿をお待ちします

平等法・児童扶養手当・年金関連は、4月16日(月)必着。そのほか毎月の記事も、どしどし、どうぞ！(月刊は毎月20日締切り)

『増刊』編集部員募集中

毎週1回くらい集まって、「平等法」を考える話し合いを重ねながら、増刊をつくっていきます。『子どもがあぶない』の編集部座談会と同じような雰囲気です。編集経験のない方も、もちろん大歓迎。あなたの『あごら』として関わってください。

3月17日—20日、労働省前で女たちが72時間ハンスト

次回の審議会は19日、労基法改悪阻止、真の雇用平等法を、と、ハンスト、大集会を予定しています。△あごら△も実行委に参加。福岡では、△あごら九州△など女性グループで10日、マラソン演説会を。

3月26日—31日、民間ESCAP

詳細は表紙裏に。アジアの方々を誘ってご参加を。出会いの場です。

【編集後記】

「何か大変なことが起こりそうなん」の予感どおり、次々に「大変なこと」が……。平等法の公益側試案は予想をはるかに超えるきびしいもの。早くも、平等法は「いらない」の声があちこちに。「こんな平等法なら……」と言いたくなる気持ちをグッとこらえて、「いらない」だけは絶対に口にすまい、と、話し合っています。「平等法は中曽根の謀略」も流布しはじめましたが、これこそは企業の謀略。取得率全国平均17%の生理休暇だけは残してもいい、と経営側は言い出したようです。燃える女たちの抵抗が各地で始まりました。どんなことがあっても分裂だけは避けましょう。最後に笑う者が笑う！

そして、生命を直撃する児童扶養手当の切り捨て。女の人生の選択を許さない憲法違反をぬけぬけ！

妻も1人1年金の掛け声のもと年金法改「正」は、妻を優遇、共働きと独身者に重い負担を課す不正年金。△女△家庭に帰れ△の露骨な戦術です。△この程度の国民△と、こまで見事にあなどられては！

重い問題が相次ぎ、少しかすんだESCAPですが、この△今△だからこそ国際的連帯を。深い心の底で語り合う民間シンポジウムを、とにかく6日間続けます。ゼヒいらして下さい。

(Q)

(おわび) 今月は記事が多く、「ある専門職女性の生涯」は休載します。